

【表紙】

【発行登録番号】	3 - 東海 1
【提出書類】	発行登録書
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2021年 3 月 5 日
【会社名】	トヨタファイナンス株式会社
【英訳名】	TOYOTA FINANCE CORPORATION
【代表者の役職氏名】	取締役社長 西 利 之
【本店の所在の場所】	愛知県名古屋市区牛島町 6 番 1 号
【電話番号】	052 - 527 - 7111(代表)
【事務連絡者氏名】	財務部長 奥 田 浩 司
【最寄りの連絡場所】	愛知県名古屋市区牛島町 6 番 1 号
【電話番号】	052 - 527 - 7111(代表)
【事務連絡者氏名】	財務部長 奥 田 浩 司
【発行登録の対象とした募集有価証券の種類】	社債
【発行予定期間】	この発行登録書による発行登録の効力発生予定日(2021年 3月15日)から 2 年を経過する日(2023年 3月14日)まで
【発行予定額又は発行残高の上限】	発行予定額 500,000百万円
【安定操作に関する事項】	該当事項なし
【縦覧に供する場所】	該当事項なし

第一部 【証券情報】

第1 【募集要項】

以下に記載するもの以外については、有価証券を募集により取得させるに当たり、その都度「訂正発行登録書」又は「発行登録追補書類」に記載します。

1 【新規発行社債】

未定

2 【社債の引受け及び社債管理の委託】

未定

3 【新規発行による手取金の使途】

(1) 【新規発行による手取金の額】

未定

(2) 【手取金の使途】

貸付金、個別信用購入あっせん実行資金（立替払型）、経費の支払資金等運転資金及びこれらに係る借入金の返済資金、コマーシャルペーパー償還資金、社債償還資金に充当する予定であります。

第2 【売出要項】

該当事項なし

第3 【その他の記載事項】

該当事項なし

第二部 【参照情報】

第1 【参照書類】

会社の概況及び事業の概況等金融商品取引法第5条第1項第2号に掲げる事項については、以下に掲げる書類を参照すること。

1 【有価証券報告書及びその添付書類】

事業年度 第32期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日) 2020年6月26日東海財務局長に提出
事業年度 第33期(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日) 2021年6月30日までに東海財務局長に提出予定
事業年度 第34期(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日) 2022年6月30日までに東海財務局長に提出予定

2 【四半期報告書又は半期報告書】

事業年度 第33期中(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日) 2020年12月18日東海財務局長に提出
事業年度 第34期中(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日) 2022年1月4日までに東海財務局長に提出予定
事業年度 第35期中(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日) 2023年1月4日までに東海財務局長に提出予定

第2 【参照書類の補完情報】

上記に掲げた参照書類としての有価証券報告書及び半期報告書(以下「有価証券報告書等」という。)に記載された「事業等のリスク」について、当該有価証券報告書等の提出日以降、本発行登録書提出日(2021年3月5日)までの間において生じた変更その他の事由はありません。

また、当該有価証券報告書等には将来に関する事項が記載されておりますが、当該事項は本発行登録書提出日(2021年3月5日)現在においてもその判断に変更はなく、新たに記載すべき将来に関する事項もありません。

第3 【参照書類を縦覧に供している場所】

トヨタファイナンス株式会社 本社
(愛知県名古屋市西区牛島町6番1号)

第三部 【保証会社等の情報】

第1 【保証会社情報】

該当事項なし

第2 【保証会社以外の会社の情報】

1 【当該会社の情報の開示を必要とする理由】

本発行登録書により募集を予定している社債(以下、「本社債」という。)には一切保証は付されない。しかしながら、本社債は、トヨタ自動車株式会社とトヨタファイナンスサービス株式会社との間の2000年10月2日付サブリメンタル・クレジット・サポート・アグリーメントNO.2(以下、「TMCクレジット・サポート・アグリーメント」という。)および当社とトヨタファイナンスサービス株式会社との間の2000年10月2日付クレジット・サポート・アグリーメント(2002年11月1日付覚書により一部変更。以下、変更部分も含めて「TFSクレジット・サポート・アグリーメント」という。)に基づき、本社債権者に対して信用補完が与えられている。従って、当該会社の企業情報は本社債の投資判断に重要な影響を及ぼすと考えられる。

クレジット・サポート・アグリーメントの原文は以下の通りである。

TMCクレジット・サポート・アグリーメント

本サブプリメンタル・クレジット・サポート・アグリーメント NO.2 (以下、「本契約」という。)は、2000年10月2日に、

- (1) 日本国愛知県豊田市トヨタ町1番地を本店所在地とする、トヨタ自動車株式会社(以下、「TMC」という。)、および、
- (2) 日本国愛知県名古屋市東区泉一丁目23番22号を本店所在地とする、トヨタファイナンシャルサービス株式会社(以下、「TFS」という。)
- との間で締結された。

ここに、以下のとおり合意する。

1. TMCおよびTFSの間で2000年7月14日付で締結されたクレジット・サポート・アグリーメント第1条に定義される「本証券」のうち日本国東京都江東区東陽六丁目3番2号を本店所在地とするトヨタファイナンス株式会社(以下「TFC」という。)の発行する社債およびコマーシャルペーパー(以下「TFC社債等」という。)については本契約の定めによる。
2. TMCは、TFSの発行済株式のすべてを直接または間接に所有するものとし、TFC社債等が残存する限り、かかる株式に直接もしくは間接に質権を設定し、またはいかなる担保の設定その他の処分をしないものとする。ただし、TMCの法律顧問の見解により有効に争うことができないと見込まれる裁判所の判決または当局の命令に従って、かかる株式の一部または全部の処分が要求される場合はこの限りではない。
3. TMCは、TFC社債等が残存している限り、TFSおよびTFS子会社(もしあれば)をして、日本で一般に認められた会計原則に従って計算されたTFSの直近の監査済年次連結貸借対照表における連結tangible net worthを、1,000万円以上に維持せしめるものとする。tangible net worthとは、資本金、資本剰余金および利益剰余金の総額から無形資産の額を控除した額をいう。
4. TFSは、期限が現在到来しまたはやがて到来するTFC社債等についての支払債務または保証およびクレジット・サポート契約に基づく債務を履行するに足りる現金またはその他の流動資産を有さず、かつ、TMC以外の貸主からの信用供与に基づく未使用のコミットメントを有しないと判断した場合はいつでも、遅滞なくTMCにかかる不足を通知するものとし、TMCはTFSに対し、当該債務についての期限の到来する前に、その期限の到来したときにTFSがかかる支払債務を完済することを可能とするに足りる資金を提供するものとする。TFSは、TMCより提供されたかかる資金を、期限が到来した場合の当該支払債務の支払にのみ使用するものとする。
5. 本契約、ならびに本契約のいかなる内容およびTMCが本契約に従ってなしたいいかなる行為も、TMCによるTFC社債等に対する直接または間接の保証とみなされることはないものとする。

6. 本契約は、TMCおよびTFS間の書面による合意によってのみ変更または修正されるものとするが、TFC社債等の保有者が8条に基づきTMCに対して請求をした場合においては、すべての変更または修正はかかる保有者の同意を得なければならない。かかる変更または修正のいかなるものも、当該変更または修正当時に残存したTFC社債等のいかなる保有者に対しても何らの悪影響も及ぼさないものとする。TMCまたはTFSは、かかる提案された変更または修正の30日前に、相手方に対し書面による通知をなすものとし、TFSまたはTMCの請求によりTFSまたはTFC社債等に対する格付をした各調査格付機関(以下、「格付機関」という。)にその写しを送付するものとする。

7. TMCまたはTFSは、相手方に対する30日の書面による通知(各格付機関に写しを送付するものとする。)により、本契約を解除することができる。ただし、解除の効果は、(i)かかる解除の通知のなされた日以前から存するすべてのTFC社債等が弁済され、または(ii)各格付機関がTFSに対し、当該解除によってもかかる全てのTFC社債等の格付が影響を受けないことを確認するまで、その効力を生じないものとする。

8. 本契約は、TFC社債等の保有者の利益のために締結されるものであり、かかる保有者はTMCによる本契約の条項の遵守に依拠することができるものとする。

TMCおよびTFSは、ここに、TFC社債等の保有者は、TMCに対し、直接本契約に基づく義務の履行を請求する権利を有する旨合意する。かかる請求は、当該保有者が、本契約に基づく権利を行使することを明示した書面によりなされるものとする。TMCが、TFC社債等の保有者のいずれかからかかる請求を受領した場合は、TMCは、いかなる行為または様式も踏襲することなしに、当該保有者がTMCの本契約に基づく義務の不履行によりまたはその結果として被った全ての損失または損害について、当該保有者に対し補償するものとする。かかる請求をしたTFC社債等の保有者は、直接TMCに対しかかる損害補償請求権の執行をすることができるものとする。その保有者の利益のためにtrustee(社債管理会社を含む。以下同じ。)が選任されているTFC社債等については、trusteeは、TFC社債等の保有者の利益のために、直接TMCに対し上記請求をすることができ、場合により、かかる保有者のためにTMCに対し損害補償請求権を執行することができるものとする。ただし、trusteeがTMCに対し直接権利行使すべき場合において、かかるTFC社債等の保有者の権利を保護するための合理的期間内にtrusteeが権利行使を行わず、かかる不行使が継続するときは、かかるTFC社債等の保有者は本条に基づき認められる行為をなすことができる。

9. 本契約は、日本法に準拠し、日本法に従って解釈される。TMCおよびTFSは、ここに、本契約より生ずるいかなる訴えまたは手続きに関しても、東京地方裁判所の管轄に取消不能の形式により服する。

上記の証として、本契約の当事者は、頭書記載の年月日に、適正に授權された役員に本契約に署名および交付せしめた。

トヨタ自動車株式会社

代表取締役

張 富士夫

トヨタファイナンシャルサービス株式会社

代表取締役

尾崎 英外

尚、第1条に記載のあるTMCおよびTFSの間で2000年7月14日付で締結されたクレジット・サポート・アグリーメント第1条は以下のとおりである。

1. TMCは、TFSの発行済株式のすべてを直接または間接に所有するものとし、TFSのボンド、ディベンチャー、ノートおよびその他の投資有価証券ならびにコマーシャルペーパー（以下「本証券」といい、3条で使用される場合を除き、TFSが保証またはクレジット・サポート債務を負っているTFSの子会社または関連会社によって発行される有価証券を含むものとする。）が残存する限り、かかる株式に直接もしくは間接に質権を設定し、またはいかなる担保の設定その他の処分をしないものとする。ただし、TMCの法律顧問の見解により有効に争うことができないと見込まれる裁判所の判決または当局の命令に従って、かかる株式の一部または全部の処分が要求される場合はこの限りではない。

TFSクレジット・サポート・アグリーメント

本クレジット・サポート・アグリーメント(以下、「本契約」(2002年11月1日付覚書による一部変更も含む。))という。)は、2000年10月2日に、

(1) 日本国愛知県名古屋市中区東区泉一丁目23番22号を本店所在地とする、トヨタファイナンシャルサービス株式会社(以下、「TFS」という。)、および、

(2) 日本国東京都江東区東陽六丁目3番2号を本店所在地とする、トヨタファイナンス株式会社(以下、「TFC」という。)

との間で締結された。

ここに、以下のとおり合意する。

1. TFSは、TFCの発行済み株式のすべてを直接または間接に所有しており、TFCの社債、コマーシャルペーパー(以下「本証券」という。)が存する限り、かかる株式に直接もしくは間接に質権を設定し、またはいかなる担保の設定その他の処分をしないものとする。ただし、TFSの法律顧問の見解により有効に争うことができないと見込まれる裁判所の判決または当局の命令に従って、かかる株式の一部または全部の処分が要求される場合はこの限りではない。

2. TFSは、本証券が存続している限り、TFCおよびTFCの子会社(もしあれば)をして、日本で一般に認められた会計原則に従って計算されたTFCの直近の監査済年次連結貸借対照表における連結tangible net worthを、1000万円以上に維持せしめるものとする。tangible net worthとは、資本金、資本剰余金および利益剰余金の総額から無形資産の額(無形資産のうちソフトウェア資産については、その額から永久劣後ローンの額を差し引いた額(ゼロを下限とする))を控除した額をいう。

3. TFCは、期限が到来する本証券についての支払債務を弁済するに足りる現金またはその他の流動資産を有さず、かつ、TFS以外の貸主からの信用供与に基づく未使用のコミットメントを有しないと判断した場合はいつでも、遅滞なくTFSにかかる不足を通知するものとし、TFSはTFCに対し、当該本証券の期限の到来する前に、その期限の到来したときにTFCがかかる支払債務を完済することを可能とするに足りる資金を提供するものとする。TFCは、TFSより提供されたかかる資金を、期限が到来した場合の当該支払債務の支払にのみ使用するものとする。

4. 本契約、ならびに本契約のいかなる内容およびTFSが本契約に従ってなしたいいかなる行為も、TFSによる本証券に対する直接または間接の保証とみなされることはないものとする。

5. 本契約は、TFSおよびTFC間の文書による合意によってのみ変更または修正されるものとするが、本証券の保有者が7条に基づき、TFSに対して請求をした場合においては、すべての変更または修正はかかる保有者の同意を得なければならない。かかる変更または修正のいかなるものも、当該変更または修正当時に存した本証券のいかなる保有者に対して何らの悪影響も及ぼさないものとする。TFSまたはTFCは、かかる提案された変更または修正の30日前に、相手方、およびTFCまたはTFSの請求によりTFCまたは本証券に対する格付をした調査格付機関(以下、「格付機関」という。)に対し、文書による通知をなすものとする。

6. TFSまたはTFCは、相手方に対する30日の文書による通知(各格付機関に写しを送付するものとする。)により、本契約を解除することができる。ただし、解除の効果は、(i)かかる解除の通知のなされた日前から存するすべての本証券が弁済され、または(ii)各格付機関がTFCに対し、当該解除によってもかかる本証券の格付が影響を受けないことを確認するまで、その効力を生じないものとする。

7. 本契約は、本証券の保有者の利益のために締結されるものであり、かかる保有者はTFSによる本契約の条項の遵守に依拠することができるものとする。

TFSおよびTFCは、ここに、本証券の保有者は、TFSに対し、直接本契約に基づく義務の履行を請求することができる旨合意する。かかる請求は、当該保有者が、本契約に基づく権利を行使することを明示した書面によりなされるものとする。TFSが、本証券の保有者のいずれかからかかる請求を受領した場合は、TFSは、いかなる行為または様式も踏襲することなしに、当該保有者がTFSの本契約に基づく義務の不履行によりまたはその結果として被った全ての損害について、当該保有者に対し補償するものとする。かかる請求をした本証券の保有者は、直接TFSに対しかかる損害賠償請求権の執行をすることができるものとする。その保有者の利益のためにtrustee(社債管理会社を含む。以下同じ。)が選任されている本証券については、trusteeは、本証券の保有者の利益のために、直接TFSに対し上記請求をすることができ、場合により、かかる保有者のためにTFSに対し損害賠償請求権を行使することができるものとする。ただし、trusteeがTFSに対し直接権利行使すべき場合において、かかる本証券の保有者の権利を保護するための合理的期間内にtrusteeが権利行使を行わず、かかる不行使が継続するときは、かかる本証券の保有者は本条に基づき認められる行為をなすことができる。

8. 本契約は、日本法に準拠し、日本法に従って解釈される。TFSおよびTFCは、ここに、本契約より生ずるいかなる訴えまたは手続きに関しても、東京地方裁判所の管轄に取消不能の形式により服する。

上記の証として、本契約の当事者は、頭書記載の日に、適正に授權された職員に本契約に署名および交付せしめた。

トヨタファイナンシャルサービス株式会社
代表取締役
尾崎 英外

トヨタファイナンス株式会社
代表取締役
佐藤 琢磨

2 【継続開示会社たる当該会社に関する事項】

(1) 【当該会社が提出した書類】

当該会社は、トヨタ自動車株式会社である。

【有価証券報告書及びその添付書類】

事業年度 第116期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日) 2020年6月24日関東財務局長に提出

【四半期報告書又は半期報告書】

事業年度 第117期第3四半期(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日) 2021年2月12日関東財務局長に提出

(2) 【上記書類を縦覧に供している場所】

トヨタ自動車株式会社 本社
(豊田市トヨタ町1番地)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

3 【継続開示会社に該当しない当該会社に関する事項】

(1) 会社名・代表者の役職氏名及び本店の所在の場所

会社名	トヨタファイナンシャルサービス株式会社
代表者の役職氏名	取締役社長 福留 朗裕
本店の所在の場所	愛知県名古屋市西区牛島町6番1号

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

(1) 最近5連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移

決算期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
売上高 (百万円)	1,880,183	1,812,554	1,978,884	2,141,906	2,200,557
経常利益 (百万円)	330,190	215,447	280,769	313,306	281,329
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	232,719	148,687	509,930	222,308	223,836
包括利益 (百万円)	82,594	117,191	439,270	267,214	103,547
純資産額 (百万円)	2,173,667	2,291,850	2,733,310	2,893,403	3,005,729
総資産額 (百万円)	21,379,657	22,188,626	22,636,927	23,660,621	24,574,145
1株当たり純資産額 (円)	1,372,219.52	1,444,732.41	1,721,667.31	1,816,366.85	1,884,482.41
1株当たり当期純利益金額 (円)	148,181.83	94,674.94	324,692.91	141,552.90	142,525.61
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	10.1	10.2	11.9	12.1	12.0
自己資本利益率 (%)	11.0	6.7	20.5	8.0	7.7
株価収益率 (倍)					
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)					
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)					
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)					
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)					
従業員数 (人)	9,670	10,172	10,364	10,634	11,469
(外、平均臨時雇用者数)	(1,536)	(1,548)	(1,450)	(1,540)	(1,542)

(注) 1 売上高は消費税等を含まない。

2 潜在株式が存在しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を記載していない。

3 非上場である為、株価収益率を記載していない。

4 連結キャッシュ・フロー計算書については記載を省略している為、「営業活動によるキャッシュ・フロー」、「投資活動によるキャッシュ・フロー」、「財務活動によるキャッシュ・フロー」及び「現金及び現金同等物の期末残高」を記載していない。

5 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を2019年3月期の期首から適用しており、2018年3月期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっている。

(2) トヨタファイナンシャルサービス株式会社の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

決算期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
売上高 (百万円)	41,846	39,854	58,411	75,532	67,138
経常利益 (百万円)	30,975	28,947	47,297	63,027	52,635
当期純利益 (百万円)	27,192	26,160	42,983	57,665	43,866
資本金 (百万円)	78,525	78,525	78,525	78,525	78,525
発行済株式総数 (株)	1,570,500	1,570,500	1,570,500	1,570,500	1,570,500
純資産額 (百万円)	556,311	581,408	624,560	580,459	621,868
総資産額 (百万円)	562,541	589,136	633,111	586,472	629,775
1株当たり純資産額 (円)	354,225.54	370,206.23	397,682.51	369,601.93	395,968.40
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額) (円)				63,674.00 (63,674.00)	
1株当たり当期純利益 金額 (円)	17,314.84	16,657.31	27,369.48	36,717.92	27,931.86
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	98.9	98.7	98.6	99.0	98.7
自己資本利益率 (%)	5.0	4.6	7.1	9.6	7.3
配当性向 (%)				173.4	
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	86 (17)	79 (18)	73 (16)	85 (14)	99 (17)

(注) 1 売上高は消費税等を含まない。

2 潜在株式が存在しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を記載していない。

3 非上場である為、株価収益率、株主総利回り、比較指標、最高株価、最低株価の記載を省略している。

2 沿革

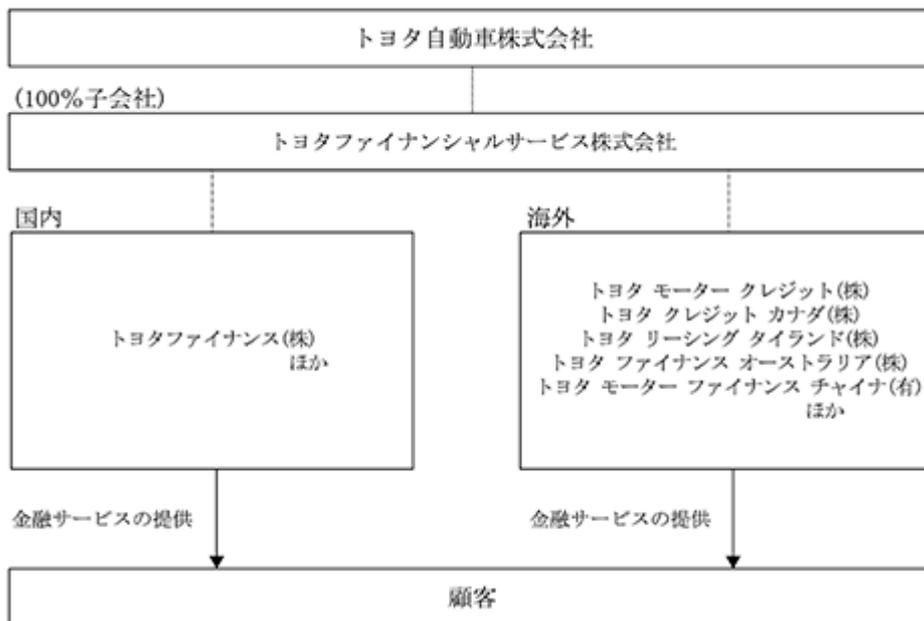
- トヨタファイナンシャルサービス株式会社(以下、TFS)は、トヨタ自動車株式会社(以下、トヨタ)の100%出資で、トヨタの金融事業の競争力強化と意思決定の迅速化を図ることを目的に国内外の金融子会社を傘下に置く統括会社として2000年7月に設立された。

年	概要
1982年	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ ファイナンス オーストラリア株式会社〔現 連結子会社〕(オーストラリア)設立 トヨタの販売金融サービスの世界展開開始
1987年	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ モーター クレジット株式会社〔現 連結子会社〕(米国)設立
1988年	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ モーター ファイナンス(ネザールズ)株式会社〔現 連結子会社〕(オランダ)設立 トヨタ クレジットバンク有限会社〔現 連結子会社〕(ドイツ)設立 トヨタファイナンス株式会社〔現 連結子会社〕(日本)設立 トヨタ モーター ファイナンス(UK)株式会社〔現トヨタ ファイナンシャル サービス(UK)株式会社:連結子会社〕(英国)設立
1989年	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ ファイナンス ニュージーランド株式会社〔現 連結子会社〕(ニュージーランド)設立
1990年	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ クレジット カナダ株式会社〔現 連結子会社〕(カナダ)設立
1993年	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ リーシング タイランド株式会社〔現 連結子会社〕(タイ)設立
1996年	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ クレジット プエルト・リコ株式会社〔現 連結子会社〕(プエルト・リコ)設立
1999年	<ul style="list-style-type: none"> バンコ トヨタ ブラジル株式会社〔現 連結子会社〕(ブラジル)設立
2000年	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ バンク ポーランド株式会社〔現 連結子会社〕(ポーランド)設立 トヨタ ファイナンシャル サービス サウス アフリカ株式会社〔現 持分法適用会社〕(南アフリカ)設立 トヨタ ファイナンシャル サービス チェコ有限会社〔現 連結子会社〕(チェコ)設立 主にトヨタ自動車株式会社が保有する販売金融子会社株式の現物出資により、トヨタファイナンシャルサービス株式会社設立
2001年	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ ファイナンス フィンランド株式会社〔現 連結子会社〕(フィンランド)の株式取得 トヨタ サービス デ ベネズエラ株式会社〔現 連結子会社〕(ベネズエラ)設立 トヨタ サービス デ メキシコ株式会社〔現トヨタ ファイナンシャル サービス メキシコ株式会社:連結子会社〕(メキシコ)設立 Seabanc GE キャピタル株式会社〔現トヨタ キャピタル マレーシア株式会社:連結子会社〕(マレーシア)の株式取得
2002年	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ ファイナンシャル サービス デンマーク株式会社〔現 連結子会社〕(デンマーク)設立 トヨタ ファイナンシャル サービス ハンガリー株式会社〔現 連結子会社〕(ハンガリー)設立 トヨタ ファイナンシャル サービス フィリピン株式会社〔現 連結子会社〕(フィリピン)設立 和潤企業株式会社〔現 持分法適用会社〕(台湾)の株式取得
2004年	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ コンパニーア フィナンシェラ デ アルゼンチン株式会社〔現 連結子会社〕(アルゼンチン)設立
2005年	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ モーター ファイナンス チャイナ有限会社〔現 連結子会社〕(中国)設立 トヨタ ファイナンシャル サービス スロバキア有限会社〔現 連結子会社〕(スロバキア)設立 トヨタ ファイナンシャル サービス コリア株式会社〔現 連結子会社〕(韓国)設立
2006年	<ul style="list-style-type: none"> PT KDLC バンクバリ ファイナンス株式会社〔現トヨタ アストラ ファイナンシャル サービス株式会社:持分法適用会社〕(インドネシア)の株式取得
2007年	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ バンク ロシア株式会社〔現 連結子会社〕(ロシア)設立
2008年	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ ファイナンシャル サービス ベトナム有限会社〔現 連結子会社〕(ベトナム)設立
2011年	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ ファイナンシャル サービス インディア株式会社〔現 連結子会社〕(インド)設立
2013年	<ul style="list-style-type: none"> トヨタファイナンシャルサービス カザフスタン有限会社〔現 連結子会社〕(カザフスタン)設立
2017年	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ ファイナンシャル サービス アイルランド株式会社〔現 連結子会社〕(アイルランド)設立
2018年	<ul style="list-style-type: none"> トヨタファイナンシャルサービス イタリア株式会社〔現 連結子会社〕(イタリア)設立
2019年	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社KINTO〔現 連結子会社〕(日本)設立 MOBILOTS株式会社〔現 連結子会社〕(日本)設立
2020年	<ul style="list-style-type: none"> トヨタファイナンシャルサービス シンガポール株式会社〔現 連結子会社〕(シンガポール)設立 フィンログ株式会社〔現 連結子会社〕(ポルトガル)の株式取得 トヨタ ファイナンシャル サービス ベルギー株式会社〔現 連結子会社〕(ベルギー)設立

3 事業の内容

- ・ T F S グループは、T F S、国内外の連結子会社67社及び持分法適用会社9社で構成され、トヨタの製品に関する販売金融サービスを中心に事業展開している。「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項 セグメント情報等 セグメント情報」に記載のとおり、T F S グループの提供する金融サービスは、主に、自動車ローン及びリースの提供、販売店への資金の貸付、保険仲介等の販売金融事業である。
- ・ 日本においては、トヨタファイナンス株式会社が、北米地域においては、トヨタ モーター クレジット株式会社及びトヨタ クレジット カナダ株式会社が、タイにおいては、トヨタ リーシング タイランド株式会社が、その他の地域においては、トヨタ ファイナンス オーストラリア株式会社及びトヨタ モーター ファイナンス チャイナ有限公司等が展開しており、現在、世界41の国・地域で顧客への販売金融サービスの提供を行っている。
- ・ T F S の主な事業内容は、これら金融事業の企画・戦略の立案、関係各社の収益管理・リスク管理、金融事業の効率化推進等である。

(関係会社系統図)



4 関係会社の状況

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業 の内容	議決権の所有 割合(%)	関係内容
(親会社)					
トヨタ自動車(株)(注)2	愛知県 豊田市	(百万円) 635,401	自動車の 製造・販売	被所有 100	役員の兼任...有 資金の預入 設備等の賃借等
(連結子会社)					
トヨタファイナンス(株) (注)1, 2	愛知県 名古屋市	(百万円) 16,500	トヨタ製品にかか る販売金融	所有 100	役員の兼任...有
トヨタ モーター クレジット(株)(注)1, 2, 4	Plano, Texas, U.S.A.	(千米ドル) 915,000	トヨタ製品にかか る販売金融	100 (100)	役員の兼任...有
トヨタ モーター インシュランス サービス(株) (注)1	Plano, Texas, U.S.A.	(米ドル) 10,000	トヨタ関連の保険 代理店業務	100 (100)	役員の兼任...有
トヨタ クレジット カナダ(株)(注)1	Markham, Ontario, Canada	(千加ドル) 60,000	トヨタ製品にかか る販売金融	100	役員の兼任...有
トヨタ クレジットバンク(有)	Cologne, Germany	(千ユーロ) 30,000	トヨタ製品にかか る販売金融	100	役員の兼任...無
トヨタ モーター ファイナンス(ネザールズ)(株) (注)2	Amsterdam, Netherlands	(千ユーロ) 908	トヨタグループ会 社への資金調達支 援	100	役員の兼任...無
トヨタ ファイナンシャル サービス(UK)(株)(注)1	Epsom, Surrey, United Kingdom	(千英ポンド) 137,350	トヨタ製品にかか る販売金融	100	役員の兼任...無
トヨタファイナンシャルサービ ス イタリア(株)(注)1	Roma, Italy	(千ユーロ) 122,863	トヨタ製品にかか る販売金融	100 (100)	役員の兼任...無
トヨタ ファイナンス オーストラリア(株)(注)1, 2	St Leonards, New South Wales, Australia	(千豪ドル) 120,000	トヨタ製品にかか る販売金融	100	役員の兼任...有
トヨタ リーシング タイランド(株)(注)1	Bangkok, Thailand	(百万タイ・ パーツ) 16,600	トヨタ製品にかか る販売金融	87.1 (0.04)	役員の兼任...無
トヨタ モーター ファイナンス チャイナ(有)(注)1	中国 北京	(千元) 4,100,000	トヨタ製品にかか る販売金融	100	役員の兼任...無
その他 53社					
(持分法適用関連会社)					
9社					

(注) 1 特定子会社に該当する。なお、(連結子会社)その他に含まれる会社のうち特定子会社に該当する会社は、トヨタファイナンシャルサービス インターナショナル(株)、トヨタ バンク ロシア(株)、トヨタ ファイナンシャル サービス インディア(株)、トヨタ ファイナンシャル サービス フィリピン(株)、トヨタ モーター リーシング チャイナ(有)及びトヨタ ファイナンシャル サービス チャイナ(有)である。

2 有価証券報告書を提出している。

3 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数。

4 トヨタ モーター クレジット(株)については売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えているが、有価証券報告書を提出しているため、主要な損益情報等の記載を省略している。

5 従業員の状況

(1) 連結会社の状況

2020年12月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
日本	2,220
北米	3,696
タイ	1,254
その他	4,751
全社(共通)	199
合計	12,120 (1,390)

(注) 1 従業員数については、就業人員(T F Sグループからグループ外への出向者を除き、グループ外からT F Sグループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、年間の平均人員を()内に外数で記載している。

2 全社(共通)は、T F Sに所属している従業員である。

(2) トヨタファイナンシャルサービス株式会社の状況

2020年12月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
199(22)	40.5	2.8	9,027

(注) 1 従業員数については、就業人員(T F Sから社外への出向者を除き、社外からT F Sへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(人材会社からの派遣社員を含む。)は、年間の平均人員を()内に外数で記載している。

2 平均年間給与額は、基準外賃金及び賞与を含む。

(3) 労働組合の状況

労働組合との間に特記すべき事項はない。

第2 事業の状況

1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等

自動車産業は、電動化・自動運転・MaaSの広がりなど100年に一度の大変革の時代を迎えている。TFSグループは、お客様に移動の自由による喜びを感じていただくよう、お客様のニーズ・ライフスタイルや地域特性に対応したサービスを提供し、TFSの使命である「トヨタのお客様を中心に、健全な金融サービスを提供し、豊かな生活に貢献する」ことを目指している。また、新たな価値を創造する「未来への挑戦」と、毎年着実に“真の競争力”を強化する「年輪的成長」を方針に掲げ、以下の課題に取り組むことで持続可能な成長を実現したいと考えている。

- (1) 自動車・販売金融一体となった事業戦略の策定、戦略的連携の強化
- (2) 販売金融事業を取り巻くリスク管理手法・体制の強化
- (3) 資金調達の多様化と緊急時の流動性確保
- (4) 生産性、効率性、収益性の向上
- (5) 車両トータルライフの収益機会の取り込み
- (6) モビリティサービスの事業化
- (7) お客様ニーズに適合したデジタル化推進
- (8) 人材育成の強化

2 事業等のリスク

TFSグループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクについて、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられる事項を以下に記載している。但し、以下はTFSグループに関する全てのリスクを網羅したものではなく、記載されたリスク以外のリスクも存在する。かかるリスク要因のいずれも、投資家の判断に影響を及ぼす可能性がある。

本項においては、将来に関する事項が含まれているが、当該事項は発行登録書提出日現在において判断したものである。

(1) 財政状態及び経営成績の異常な変動

損益関連

トヨタ・レクサス車の販売減少に伴い、TFSグループの融資件数や金融債権残高が減少する可能性がある。

ディストリビューターと契約する特別プログラムの内容が変化することにより、収益が減少又は費用が増加する可能性がある。

現地の商業銀行など他金融機関との融資レートの競争により、利鞘が縮小するリスクがある。

格付け機関によるトヨタ及びTFSグループの格付け変更ならびに将来の格付けに対する見直し変更や、展開国・地域における資金調達環境の変化などにより、調達可能資金量に制約を受け、TFSグループの融資件数や金融債権残高が減少する可能性がある。

リスクヘッジのためデリバティブを使用しているが、デリバティブは各期末において時価評価され、その結果生じる評価損益が損益計算書に計上されるため、損益計算書に計上される売上原価がデリバティブ評価損益の影響を強く受ける可能性がある。

格付け機関によるトヨタ及びTFSグループの格付け変更ならびに将来の格付けに対する見直し変更や、展開国・地域における市場金利の上昇などの資金調達環境の変化、資金調達・リスクヘッジのタイミング・規模・市場選択の巧拙などにより、資金調達コストが上昇するリスクがある。

デリバティブ取引においてカウンターパーティが倒産することにより、債権を回収できないリスクがある。

TFSグループが契約しているクレジットサポートアグリーメントあるいは保証・コンフォートレターの履行リスクがある。

リース終了時の車両価格の想定以上の下落や返却されるリース車両の増加などの要因により、残価関連費用が増加するリスクがある。また、融資先の信用力の悪化により、貸倒関連費用が増加するリスクがある。

こうしたリスクに対処するため、TFSグループ横断的な収益管理・経営管理体制の下で継続的な業績管理を実施するとともに、資金調達・リスク管理に関わるポリシー・ガイドラインを定め、定期的なモニタリングを行うことで、業務運営の適正性確保を図っている。

オペレーショナル・リスク

情報漏洩・事務ミス・詐欺・故障等、適切な内部管理や事務プロセスの不備、ならびに故意または過失による人為的事故等により、損失が発生するリスクがある。

こうしたリスクに対処するため、内部通報制度の設置・運用、情報技術基盤ならびに運営手続の整備、持続的な業務改善活動等を通じて、リスク軽減に向けた業務見直しへの取り組みを行っている。

為替リスク

T F Sグループは、国内外30以上の国・地域で販売金融事業を展開している。各国・地域における売上、費用、資産など現地通貨建ての項目は、連結財務諸表作成のために円換算されている。換算時の為替レートの変動により、現地通貨における価値が変わらなかったとしても、円換算後の価値が影響を受ける可能性がある。

こうしたリスクを念頭に置き、為替市場動向を注視し、為替レート変動が経営成績等に与える影響を適時適切にモニタリングしている。

外部リスク

T F Sグループが展開している国・地域における政治・経済・規制等の変化が各国・地域の経済政策や金融・財政政策に及ぼす影響により、T F Sグループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性がある。

T F Sグループが展開している国・地域における戦争・テロ・騒乱、震災・火災・風水害などの災害やパンデミック（感染爆発）といった政治・社会の混乱により、当該国・地域の経済の低迷や、T F Sグループの資産・担保・顧客・従業員などへの被害、トヨタ・レクサス車の生産・販売活動への障害などの事象が発生した場合、T F Sグループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性がある。

こうしたリスクに対処するため、T F Sグループ横断的な事業継続・緊急時の対応に関するポリシーを定めた上で、各社が事業継続計画を整備ならびに必要なに応じて更新し、定期的な訓練・演習を実施することで、不測の事態への対応に備えている。

また、足元、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大およびこれに対する各国政府やその他のステークホルダーの対応を受けた、自動車需要・消費の落ち込みによる影響、支払い猶予等による信用コストへの影響、資金調達への影響等、T F Sグループにおいても様々な面での影響が想定される。世界的な新型コロナウイルスの収束時期は依然として不透明であり、また、その影響の範囲や程度については予測しがたく、T F Sグループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性がある。

流動性リスク

大規模な金融システム不安や混乱等により、金融市場における流動性が著しく低下した場合、あるいは、トヨタ及びT F Sグループの業績や財務状況の悪化、格付けの低下や風説・風評の流布等が発生した場合には、通常より著しく高い金利による資金調達が余儀なくされる、あるいは、資金繰り運営に支障が生じる可能性がある。その結果、T F Sグループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性がある。

こうしたリスクに対処するため、T F Sグループ横断的な資金調達・リスク管理に関わるポリシー・ガイドラインを定め、定期的なモニタリングを行うとともに、複数金融機関によるグローバルなバック・アップ・ファシリティの設定、シナリオに則った資金流動性訓練の実施等を通じて、業務運営の適正性・実効性の確保を図っている。

システムに関するリスク

自然災害、障害、不正使用、サイバー攻撃などの影響により、T F Sグループ会社が利用するシステムに、誤作動や停止、情報の消失や漏洩等の事象が発生した場合、業務の中断・混乱、損害賠償金の支払い、T F Sグループの社会的信用の失墜等によりT F Sグループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性がある。

こうしたリスクに対処するため、堅牢な情報技術基盤ならびにT F Sグループ横断的な運営手続の整備、情報セキュリティ教育の徹底、情報漏洩・サイバー攻撃を想定した訓練の実施、外部脅威の動向の継続的モニタリングを通じた対策を講じている。

コンプライアンスに関するリスク

T F Sグループ会社が法令などに抵触する事態が生じた場合、行政処分や刑事処分（登録や免許の取り消し、課徴金や罰金の命令等）、損害賠償金の支払い、T F Sグループの社会的信用の失墜等によりT F Sグループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性がある。

こうしたリスクに対処するため、T F Sグループ横断的なポリシー・ガイドラインを定めた上で、各グループ会社における管理体制の整備・強化、持続的な教育・研修の実施により業務運営の適正性確保を図っている。

個人情報管理に関するリスク

TF Sグループは個人情報を取り扱っており、これらの情報について紛失・漏洩等が発生した場合、行政処分、刑事処分、損害賠償金の支払い、TF Sグループの社会的信用の失墜等によりTF Sグループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性がある。

こうしたリスクに対処するため、前述のオペレーショナル・リスクにかかる取り組みに加え、TF Sグループ横断的なポリシー・ガイドラインを定めた上で、各グループ会社における自己査定に基づく管理体制の整備・強化、持続的な教育・研修の実施により業務運営の適正性確保を図っている。

販売金融以外のビジネス

TF Sグループは、法令その他の条件の許す範囲内で、販売金融以外の分野においても事業を行っている。TF Sグループは、販売金融以外の事業範囲に関するリスクについては、相対的に限られた経験しか有していないことがあるため、業務特性に応じた適切なリスク管理がなされなければ、TF Sグループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性がある。

こうしたリスクに対処するため、適切なリスク管理システムを構築し、知見ある人材の採用・活用等も行いながら、事業にかかる潜在的なリスクをモニターすることで、TF Sグループの財政状態及び経営成績に与える影響の抑止を図っている。

(2) 特定の取引先・製品・技術等への依存

TF Sグループの事業はトヨタ・レクサス車の販売に大きく依存している。このため、規制による場合または自主的な場合に関らず、リコール等の改善措置の実施などによりトヨタ・レクサス車の販売や価格に悪影響が生じた場合、TF Sグループの売上や資産が減少または費用が増加する可能性がある。

また、大規模な販売店など特定の法人に対しクレジットエクスポージャーを保有し、その法人の信用力が大幅に低下するかあるいは倒産した場合に、貸倒関連費用が増加する可能性がある。

こうしたリスクに対処するため、TF Sグループ横断的な収益管理・経営管理体制の下で継続的なモニタリングを実施し、また、法人向けと信に関わるポリシーを定め、業務運営の適正性確保を図っている。

(3) 特有の法的規制・取引慣行・経営方針

銀行免許を保有しているTF Sグループ子会社等に対する自己資本比率などの規制に関する基準や算定方法の変更が行われるリスクがある。

TF Sグループが展開している国・地域における税制の変更や、負債や資本に関する規制などの変更により、TF Sグループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性がある。

こうしたリスクに対処するため、全社レベルでビジネスリスク全般を監視する「エンタープライズ・リスク・コミッティ」傘下のファンクショナル・コミッティにおける活動を通じて、外部環境変化の定期的な情報連携・共有を促進することで、早期に対策を講ずる運営体制としている。

(4) 重要な訴訟事件等の発生

TF Sグループ会社が当事者となる訴訟事件や法的手続き等で不利な判断がなされた場合、または、それらの訴訟事件や法的手続き等に伴うTF Sグループの社会的信用の失墜などが生じた場合、TF Sグループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性がある。

こうしたリスクに対処するため、TF Sグループ各社では、訴訟事件・法的手続き等の当事者となった場合、その内容に応じた適切な弁護士の登用、社内態勢の整備等、適切な事案管理に取り組んでいる。

3 経営者による財政状態及び経営成績の状況の分析

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

(1) 重要な会計方針及び見積り

T F Sグループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成している。この連結財務諸表の作成に当たっては、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債、収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としている。経営者は、これらの見積りについて、過去の実績や現状を勘案し合理的に判断しているが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は、これらの見積りと異なる場合がある。

T F Sグループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載している。

(2) 経営成績等の状況の概要

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度のわが国経済は、海外経済の減速や自然災害などが輸出・生産や企業マインド面に影響したことや、消費税率引き上げなどにより国内需要が減少したことから、弱めの動きがみられたものの、基調としては年末まで緩やかな拡大が続いた。海外経済は、米中貿易摩擦や英国のEU離脱交渉の展開などを巡って不確実性が高まるなかで、減速の動きが続いていたものの、年内は総じて緩やかに成長した。年明け以降は新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響により経済活動が大幅に抑制されたことから、国内外経済は年度末にかけて急速に減速した。先行きは、新型コロナウイルス感染症の長期化による国内外経済のさらなる下振れや、金融資本市場に及ぼす影響、及び、各国金融政策の動向等に留意していく必要がある。

また、自動車市場においては、中国や新興国の一部で落ち込みがみられたものの、先進国では安定的に推移し、世界全体でも微減にとどまっていたが、新型コロナウイルスによる、世界的な工場の稼働停止や販売店の営業停止など、大きく影響が及び始めた。一方で、環境問題や社会課題への対応、急速な自動化、電動化、コネクティッド、ロボティクスなどの技術革新、さらには、人々のライフスタイルの多様化などにより、100年に一度の大変革の時代を迎えている。

このような環境下、T F Sグループは「お客様の利益やニーズを常に第一に考える」企業哲学のもと、金融事業を通じて、お客様の日常生活をサポートし、ひとりでも多くの方々にトヨタファンになっていただくことを目指している。また、トヨタ・レクサス車の販売支援を通じてトヨタグループ全体の企業価値向上に貢献するためには、新たな価値を創造する「未来への挑戦」と、一年一年着実に真の競争力を強化する「年輪的成長」の実現が不可欠と考えている。「未来への挑戦」としては、バリューチェーンの深化、モビリティサービスによる新たなエコシステムの創造・取り込みに取り組んでいる。具体的には、クルマの「所有」から「利活用」へのシフトに応じ、日本では愛車サブスクリプションサービス「KINTO」の全国展開を開始した。またドイツに設立したトヨタフリートモビリティ(有)を活用し、欧州全体へのフルサービスリースの展開を強化している。さらに、お客様の日常決済の利便性向上ならびにモビリティ社会の基盤づくりに貢献するプラットフォームとなる決済アプリ「TOYOTA Wallet」を開発し提供を開始した。「年輪的成長」としては、お客様のニーズに合わせて、車両販売・カスタマーサービスのデジタル化を推進するとともに、主要事業の自動車ローン・リース、保険などの生産性向上の取り組みを加速させた。

これらの活動の結果、日本・北米・欧州を中心にすべての地域で業容が拡大した。また、新車融資シェアは約35%、新車融資件数は約283万件と、トヨタ・レクサス車の販売に貢献した。

今後も、トヨタ自動車の販売戦略の一翼を持続的に担っていくため、バリューチェーン・モビリティサービスへの取り組み強化を通じた収益力の向上、健全なオペレーション体制および強固な財務体質の構築に取り組んでいく。

以上の結果、当連結会計年度のT F Sグループ連結決算は、売上高は2兆2,005億円と、前連結会計年度に比べて586億円の増収となり、貸倒関連費用の増加などにより、営業利益は2,478億円と339億円の減益、経常利益は2,813億円と319億円の減益となったが、親会社株主に帰属する当期純利益は2,238億円と15億円の増益となった。

T F S単独決算については、売上高は671億円と、前事業年度に比べて83億円の減収となり、受取配当金の減少などにより、営業利益は511億円と104億円の減益、経常利益は526億円と103億円の減益、当期純利益は438億円と137億円の減益となった。

セグメントの業績は、次のとおりである。

(日本)

売上高は1,953億円と、前連結会計年度に比べて176億円の増収となったが、販売費及び一般管理費の増加などにより、営業利益は144億円と104億円の減益となった。

(北米)

売上高は1兆5,153億円と、前連結会計年度に比べて246億円の増収となり、利鞘の拡大などにより、営業利益は1,396億円と68億円の増益となった。

(タイ)

売上高は828億円と、前連結会計年度に比べて84億円の増収となったが、デリバティブ関連損益の影響などにより、営業利益は59億円と159億円の減益となった。

(その他)

売上高は4,069億円と、前連結会計年度に比べて78億円の増収となったが、貸倒関連費用の増加などにより、営業利益は947億円と101億円の減益となった。

また、当連結会計年度末におけるT F Sグループの財政状態は次のとおりである。

当連結会計年度末の総資産は24兆5,741億円と、前連結会計年度末に比べて9,135億円の増加となった。流動資産は9,219億円増加して19兆3,865億円、固定資産は83億円減少して5兆1,875億円となった。流動資産の増加は有価証券、現金及び預金の増加などによるものであり、固定資産の減少は賃貸資産の減少などによるものである。

当連結会計年度末の負債合計は21兆5,684億円と、前連結会計年度末に比べて8,011億円の増加となった。流動負債は7,550億円増加して11兆418億円、固定負債は461億円増加して10兆5,265億円となった。流動負債の増加は1年以内返済予定の長期借入金、コマーシャルペーパーの増加などによるものであり、固定負債の増加は長期借入金の増加などによるものである。

当連結会計年度末の純資産合計は3兆57億円と、前連結会計年度末に比べて1,123億円の増加となった。この増加は利益剰余金の増加などによるものである。

営業実績

当連結会計年度の営業実績をセグメントごとに示すと、以下のとおりである。

イ 取扱残高

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同期比(%)
日本	1,765,755	8.5
北米	13,437,659	0.2
タイ	1,258,545	1.3
その他	5,249,539	1.8
合計	21,711,499	0.0

- (注) 1 セグメント間取引については相殺消去している。
2 上記取扱高は営業債権、リース債権及びリース投資資産、賃貸資産の期末残高を記載している。
3 上記の金額には消費税等は含まない。

ロ 売上高実績

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同期比(%)
日本	195,315	9.9
北米	1,515,398	1.7
タイ	82,845	11.4
その他	406,998	2.0
合計	2,200,557	2.7

- (注) 1 セグメント間取引については相殺消去している。
2 上記の金額には消費税等は含まない。

当中間連結会計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

(1) 重要な会計方針及び見積り

T F Sグループの中間連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成している。この中間連結財務諸表の作成に当たっては、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債、収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としている。経営者は、これらの見積りについて、過去の実績や現状を勘案し合理的に判断しているが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は、これらの見積りと異なる場合がある。

T F Sグループの中間連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 中間連結財務諸表等 (1) 中間連結財務諸表 注記事項 (中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」の「5 会計方針に関する事項」に記載している。

(2) 経営成績等の状況の概要

財政状態及び経営成績の状況

当中間連結会計期間のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による国内雇用・所得環境の弱い動き、個人消費の大幅な減少などを背景に厳しい状態が続いたものの、一部海外経済の改善を受けて輸出が増加に転じたことや、政府の経済対策の効果もあり、持ち直しの動きもみられた。

海外経済は、感染症の世界的大流行の影響により厳しい状況は続いているが、経済活動の再開が段階的に進められるなかで、持ち直しに向かう動きもあった。

先行きは、新型コロナウイルス感染症再拡大の影響による国内外経済のさらなる下振れや、金融資本市場に及ぼす影響、及び、各国金融政策の動向等に留意していく必要がある。

また、自動車産業は、急速なC A S Eなどの技術革新、人々のライフスタイルの多様化などにより、100年に一度の大変革の時代を迎えている。

このような環境下、トヨタのグループ全体の企業価値向上に貢献するため、金融に関連する分野を中心に「未来への挑戦」としてバリューチェーンの深化やペイメントソリューションの提供、モビリティサービスによる新たなエコシステムの創造・取込みに取り組んでいる。また、「年輪的成長」として、お客様のニーズに合わせて、車両販売・カスタマーサービスのデジタル化を推進するとともに、主要事業の自動車ローン・リース、保険などの生産性向上の取り組みを加速させた。

これらの活動の結果、新車融資シェアは約35%、新車融資件数は約128万件と、トヨタ・レクサス車の販売に貢献した。

以上の結果、当中間連結会計期間のT F Sグループの業績は、売上高は1兆718億円と、前中間連結会計期間に比べて208億円の減収となったが、利鞘の拡大などにより、営業利益は2,223億円と183億円の増益、経常利益は2,354億円と141億円の増益、親会社株主に帰属する中間純利益は1,770億円と138億円の増益となった。

セグメントの業績は、次のとおりである。

(日本)

売上高は1,003億円と前中間連結会計期間に比べて67億円の増収となったが、販売費及び一般管理費の増加などにより、営業利益は67億円と17億円の減益となった。

(北米)

売上高は7,392億円と前中間連結会計期間に比べて193億円の減収となったが、デリバティブ関連損益の影響などにより、営業利益は1,676億円と335億円の増益となった。

(タイ)

売上高は382億円と前中間連結会計期間に比べて24億円の減収となったが、デリバティブ関連損益の影響などにより、営業利益は90億円と80億円の増益となった。

(その他)

売上高は1,939億円と前中間連結会計期間に比べて58億円の減収となり、デリバティブ関連損益の影響などにより、営業利益は354億円と230億円の減益となった。

また、当中間連結会計期間末におけるT F Sグループの財政状態は次のとおりである。

当中間連結会計期間末の総資産は25兆3,165億円と、前連結会計年度末に比べて7,424億円の増加となった。流動資産は8,347億円増加して20兆2,213億円、固定資産は923億円減少して5兆952億円となった。流動資産の増加は有価証券、現金及び預金の増加などによるものであり、固定資産の減少は賃貸資産の減少などによるものである。

当中間連結会計期間末の負債合計は22兆1,693億円と、前連結会計年度末に比べて6,009億円の増加となった。流動負債は1,351億円減少して10兆9,067億円、固定負債は7,360億円増加して11兆2,626億円となった。流動負債の減少はコマーシャルペーパーの減少などによるものであり、固定負債の増加は長期借入金の増加などによるものである。

当中間連結会計期間末の純資産合計は3兆1,472億円と、前連結会計年度末に比べて1,414億円の増加となった。この増加は利益剰余金の増加などによるものである。

営業実績

当中間連結会計期間の営業実績をセグメントごとに示すと、以下のとおりである。

イ 取扱残高

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同期比(%)
日本	1,794,991	
北米	13,189,364	
タイ	1,299,490	
その他	5,482,570	
合計	21,766,416	

- (注) 1 セグメント間取引については相殺消去している。
2 上記取扱残高は営業債権、リース債権及びリース投資資産、賃貸資産の中間期末残高を記載している。
3 上記の金額には消費税等は含まない。

ロ 売上高実績

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同期比(%)
日本	100,350	
北米	739,232	
タイ	38,284	
その他	193,937	
合計	1,071,805	

- (注) 1 セグメント間取引については相殺消去している。
2 上記の金額には消費税等は含まない。

4 経営上の重要な契約等

T F S は、当連結会計年度に開催された取締役会においてT F S の連結子会社であるトヨタフリートモビリティ(有)がフィンログ株の株式を51%取得することを決議し、契約を締結した。

詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項 企業結合等関係」に記載のとおりである。

5 研究開発活動

該当事項はない。

第3 設備の状況

1 設備投資等の概要

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

TFSグループでは、顧客とのリース取引に応じるため取得する賃貸資産（車両運搬具、工具器具備品及び機械装置等）が主な対象である。当連結会計年度の賃貸資産の設備投資額は2,032,682百万円であり、主に北米セグメントに係るものである。また、賃貸資産以外の設備投資額は40,198百万円であり、主に建物に係るものである。

なお、リース終了に伴い通常行われる資産の除却または売却を除き、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はない。

当中間連結会計期間（自 2020年4月1日 至 2020年9月30日）

当中間連結会計期間の賃貸資産の設備投資額は891,771百万円であり、主に北米セグメントに係るものである。また、賃貸資産以外の設備投資額は11,225百万円であり、主にソフトウェアに係るものである

なお、リース終了に伴い通常行われる資産の除却または売却を除き、当中間連結会計期間において重要な設備の除却、売却等はない。

2 主要な設備の状況

当中間連結会計期間末（2020年9月30日）

TFSグループにおける主たる設備の状況は、次のとおりである。

(1) 賃貸資産の状況

区分	帳簿価額(百万円)	構成比(%)
オペレーティング・リース資産	4,182,252	100.0
合計	4,182,252	100.0

(注) 1 上記の金額には消費税等を含まない。

2 上記のオペレーティング・リース資産は、主に北米セグメントのリース用の車両である。

(2) 社用設備及び賃貸目的以外の事業用設備の状況

1) トヨタファイナンスサービス株式会社の状況

重要なものはない。

2) 国内子会社の状況

子会社 (主な所在地)	セグメント の名称	主な設備 の内容	帳簿価額(百万円)				従業員数 (人)
			建物	ソフト ウェア	その他	合計	
トヨタファイナンス(株) (愛知県名古屋市)	日本	業務施設	817	11,368	487	12,673	1,990 (288)

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具及び工具器具備品を含んでいる。

2 上記の子会社には、上表のほか、リース契約に基づく賃借資産があるが、重要性がないため記載を省略している。

3 上記の金額には消費税等を含まない。

4 従業員数の()は臨時雇用者数を外数で記載している。

3) 在外子会社の状況

子会社 (主な所在地)	セグメント の名称	主な設備 の内容	帳簿価額(百万円)				従業員数 (人)
			建物	ソフト ウェア	その他	合計	
トヨタ モーター クレジット㈱ (Plano, Texas, U.S.A.)	北米	業務施設	11,922	17,217	2,258	31,398	3,545 (473)

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具及び工具器具備品を含んでいる。
2 上記の子会社には、上表のほか、オペレーティング・リース取引に係る賃借資産があり、年間賃借料は2,279百万円である。
3 上記の金額には消費税等を含まない。
4 従業員数の()は臨時雇用者数を外数で記載している。

3 設備の新設、除却等の計画

(1) 新設等

2020年12月31日現在において、TFSグループにおける2021年3月期(自2020年4月1日至2021年3月31日)の賃貸資産の設備投資計画額は、1,941,119百万円であり、主に北米セグメントに係るものである。

また、賃貸資産以外の設備投資計画額は25,015百万円であり、主にソフトウェアに係るものである。

(2) 除却及び売却

2020年12月31日現在において、リース終了に伴い通常行われる資産の除却または売却を除き、2021年3月期において重要な設備の除却、売却等の計画はない。

第4 トヨタファイナンスサービス株式会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等

株式の総数

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,680,000
計	4,680,000

発行済株式

種類	発行数(株)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,570,500	非上場	(注)1, 2
計	1,570,500		

(注)1 単元株制度は採用していない。

2 株式の譲渡制限に関する規定は次のとおりである。

T F Sの発行する全部の株式について、譲渡による当該株式の取得には、取締役会の承認を要する。

(2) 新株予約権等の状況

ストックオプション制度の内容

該当事項はない。

ライツプランの内容

該当事項はない。

その他の新株予約権等の状況

該当事項はない。

(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等

該当事項はない。

(4) 発行済株式総数、資本金等の推移

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2004年7月15日 (注)1	70,000	1,570,500	3,500	78,525	3,500	78,525

(注)1 株主割当 1,500,500 : 70,000 70,000株

発行価格 100,000円

資本組入額 50,000円

(5) 所有者別状況

(2020年12月31日現在)

区分	株式の状況							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)				1				1	
所有株式数(株)				1,570,500				1,570,500	
所有株式数の割合(%)				100.00				100.00	

(6) 大株主の状況

(2020年12月31日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
トヨタ自動車株式会社	愛知県豊田市トヨタ町1番地	1,570,500	100.00
計		1,570,500	100.00

(7) 議決権の状況

発行済株式

(2020年12月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式1,570,500	1,570,500	
単元未満株式			
発行済株式総数	1,570,500		
総株主の議決権		1,570,500	

自己株式等
該当事項はない。

2 自己株式の取得等の状況

〔株式の種類等〕 該当事項はない。

(1) 株主総会決議による取得の状況

該当事項はない。

(2) 取締役会決議による取得の状況

該当事項はない。

(3) 株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容

該当事項はない。

(4) 取得自己株式の処理状況及び保有状況

該当事項はない。

3 配当政策

T F Sは、配当については、財務体質の強化、金融事業の新規展開に必要な内部留保を確保しつつ、業績に裏付けされた利益の配分を年1回行うことを基本方針としている。これらの利益の配分の決定機関は、株主総会である。また、T F Sは取締役会の決議によって中間配当をすることができる旨を定款に定めている。

第20期（2020年3月期）は、財務体質の強化を優先し、無配とした。

4 コーポレート・ガバナンスの状況等

(1) コーポレート・ガバナンスの概要

会社機関の内容

T F Sは、経営方針等の重要事項に関する意思決定機関及び監督機関として取締役会、業務執行機関として代表取締役、監査機関として監査役、という会社法上規定されている株式会社の機関制度を基本としている。

発行登録書提出日現在、取締役会は取締役8名で構成され、T F Sの業務執行を決定し、取締役の職務の執行を監督している。

また、監査役制度（監査役3名）を採用している。監査役間での緊密な連携や分担を目的に監査役協議会を設置し、当該会議での意見交換を通じて策定された監査計画に基づき、取締役会をはじめとする重要会議への出席や、業務執行状況の調査等を通じて、取締役の職務遂行について厳正な監査を行っている。

内部統制システムの状況

T F Sは金融事業に内在するリスクに対する適正な統制を行うため、T F Sグループ各社に対して、社内組織・諸規則の整備・運用、役職員の教育、各種報告・チェック体制の強化を求めるとともに、効率的・効果的な内部監査を推進するグローバル監査体制を構築している。具体的には監査体制をT F S、地域統括本部、各子会社等の三層に区分し、各層の内部監査人が各担当領域の内部監査を実施している。各層間で責任を分担するとともに、状況に応じて協力して監査やトレーニングを実施することにより、T F Sグループ全体としての監査の標準化・高度化及び効率化を図っている。

また、米国企業改革法第404条に基づく内部統制の評価については、主要子会社に対し、財務報告に影響を与える可能性のある業務処理体制・基準・手順について、その整備・文書化・評価等の実施徹底を要請しており、実施状況の点検を行っている。

リスク管理体制の状況

T F S、地域統括本部、子会社等の各レベルで各種リスクを管理している。また、全社レベルでビジネスリスク全般を監視する「エンタープライズ・リスク・コミッティ」に加え、専門分野毎に「ファンクショナル・コミッティ」などを設置して、様々なリスクを管理するとともに、管理手法の高度化やグローバル展開に取り組んでいる。

役員報酬の内容

T F Sの取締役に対する報酬の内容は、年間報酬総額98百万円（うち、社外取締役 百万円）である。また、監査役に対する報酬の内容は、年間報酬総額40百万円（うち、社外監査役 百万円）である。

取締役の定数

T F Sの取締役は13名以内とする旨定款に定めている。

取締役の選任の決議要件

T F Sの取締役の選任は、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めている。

また、取締役の選任は累積投票によらないものとする旨を定款で定めている。

株主総会決議事項を取締役会で決議できる事項

イ 株主に株式の割当を引き受ける権利を与える場合の決定機関

T F S は、会社法第199条第1項の募集において、株主に株式の割当を引き受ける権利を与える場合には、募集事項及び同法第202条第1項各号に掲げる事項を取締役会の決議により定められる旨を定款で定めている。

ロ 中間配当の決定機関

T F S は、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当について、取締役会の決議により行うことができる旨を定款に定めている。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものである。

(2) 役員の状況

役員一覧

男性11名 女性 名（役員のうち女性の比率 %）

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
代表取締役 取締役社長	福 留 朗 裕	1963年 1月 1日生	1985年 4月	株式会社三井銀行 (現 株式会社三井住友銀行) 入社	(注) 1	なし
			2015年 4月	株式会社三井住友銀行 常務執行役員 就任		
			2018年 1月	トヨタ自動車株式会社 常務役員 //		
			2018年 1月	トヨタファイナンシャルサービス 株式会社 取締役社長(現任) //		
			2018年 1月	トヨタファイナンス株式会社 取締役(現任) //		
			2018年 1月	トヨタファイナンシャルサービス イン ターナショナル株式会社 取締役会長(現任) //		
			2019年 6月	トヨタ ファイナンシャル サービス チャイナ有限会社 取締役会長 //		
取締役上級副社長	小 寺 信 也	1962年 3月 1日生	1984年 4月	トヨタ自動車株式会社 入社	(注) 1	なし
			2013年 4月	同社 常務役員 就任		
			2018年 1月	トヨタファイナンシャルサービス 株式会社 取 締 役 上 級 副 社 長 (現 任) //		
			2018年 6月	トヨタファイナンス株式会社 取締役(現任) //		
			2018年12月	トヨタフリーモビリティー有限会社 取締役会長(現任) //		
			2019年 2月	株式会社K I N T O 取締役社長(現任) //		
取締役	マーク テン布林	1961年 1月 2日生	1990年 1月	米国トヨタ自動車販売株式会社 入社	(注) 1	なし
			2013年 4月	トヨタ自動車株式会社 常務役員 就任		
			2016年 4月	トヨタファイナンシャルサービス 株式会社 取締役(現任) //		
			2016年 4月	トヨタ ファイナンシャル サービス アメリカ株式会社(現 トヨタファイ ナンシャルサービス インターナシ ョナル株式会社) 取締役社長(現任) //		
			2016年 5月	トヨタ モーター クレジット 株式会社 取締役会長 //		
			2018年 9月	同社 取締役社長(現任) //		
			2018年 9月	トヨタ モーター インシュランス サービス株式会社 取締役社長(現任) //		
			2018年 9月	トヨタ クレジット カナダ株式会社 取締役会長(現任) //		

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	ハオ ティエン	1964年5月19日生	1999年6月	カナダトヨタ株式会社 入社	(注)1	なし
			2017年1月	トヨタ モーター アジア パシフィック 株式会社 取締役(現任) 就任		
			2019年1月	トヨタ アストラ ファイナンシャル サービス株式会社 プレジデント コミッショナー(現任) "		
			2020年1月	トヨタファイナンシャルサービス 株式会社 取締役(現任) "		
取締役	西 利 之	1961年4月23日生	1985年4月	トヨタ自動車株式会社 入社	(注)1	なし
			2017年4月	同社 常務役員 就任		
			2018年1月	トヨタ東京カローラ株式会社(現 ト ヨタモビリティ東京株式会社) 取締役社長 "		
			2019年4月	トヨタモビリティ東京株式会社 取締役 "		
			2019年6月	トヨタファイナンス株式会社 取締役社長(現任) "		
			2019年6月	トヨタファイナンシャルサービス 株式会社 取締役(現任) "		
取締役	小 林 耕 士	1948年10月23日生	1972年4月	トヨタ自動車工業株式会社 (現 トヨタ自動車株式会社) 入社	(注)1	なし
			2001年6月	トヨタファイナンシャルサービス 株式会社 取締役 就任		
			2004年6月	株式会社デンソー 常務役員 "		
			2007年6月	同社 専務取締役 "		
			2010年6月	同社 取締役副社長 "		
			2015年6月	同社 取締役副会長 "		
			2018年1月	トヨタ自動車株式会社 副社長 "		
			2018年1月	トヨタファイナンシャルサービス 株式会社 取締役(現任) "		
			2018年1月	株式会社デンソー 取締役 "		
			2018年6月	トヨタ自動車株式会社 取締役(現任) "		
			2018年6月	トヨタファイナンス株式会社 取締役(現任) "		

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	中田 佳宏	1968年1月18日生	1991年4月 2020年1月 2020年6月 2020年6月	トヨタ自動車株式会社 入社 トヨタ モーター アジア パシフィック株式会社 取締役社長 就任 トヨタ自動車株式会社 事業・販売部門 統括部長(現任) " トヨタファイナンスサービス株式会社 取締役(現任) "	(注)1	なし
取締役	山本 正裕	1974年12月4日生	1997年4月 2017年11月 2019年6月 2020年7月	トヨタ自動車株式会社 入社 同社 秘書部主査 就任 トヨタファイナンスサービス株式会社 取締役(現任) " トヨタ自動車株式会社 社長室室長(現任) "	(注)1	なし
監査役	高橋 裕	1959年5月2日生	1982年4月 2011年6月 2017年4月 2018年6月 2020年6月	トヨタ自動車工業株式会社 (現 トヨタ自動車株式会社) 入社 トヨタファイナンス株式会社 取締役 就任 トヨタファイナンスサービス株式会社 執行役員 " トヨタ モーター ファイナンス チャイナ有限公司 取締役社長 " トヨタファイナンスサービス株式会社 監査役(現任) "	(注)2	なし
監査役	小倉 克幸	1963年1月25日生	1985年4月 2018年1月 2018年1月 2019年6月	トヨタ自動車株式会社 入社 同社 監査役室室長 就任 トヨタファイナンスサービス株式会社 監査役(現任) " トヨタ自動車株式会社 常勤監査役(現任) "	(注)2	なし
監査役	近 健太	1968年8月2日生	1991年4月 2017年1月 2018年6月 2019年6月 2019年7月	トヨタ自動車株式会社 入社 同社 経理部部长 就任 同社 常務役員 " トヨタファイナンスサービス株式会社 監査役(現任) " トヨタ自動車株式会社 執行役員(現任) "	(注)2	なし
計						

(注)1 取締役の任期は、2021年3月期に係る定時株主総会終結の時までである。

2 監査役の任期は、2024年3月期に係る定時株主総会終結の時までである。

(3) 監査の状況

監査役監査の状況

監査役制度（監査役3名）を採用している。監査役間での緊密な連携や分担を目的に監査役協議会を設置し、当該会議での意見交換を通じて策定された監査計画に基づき、取締役会をはじめとする重要会議への出席や、業務執行状況の調査等を通じて、取締役の職務遂行について厳正な監査を行っている。

当事業年度においてTF Sは監査役協議会を合計4回開催しており、個々の監査役の出席状況については次のとおりである。

氏名	監査役協議会出席状況
矢島 一朗	全4回中4回
犬塚 力	全1回中1回
小倉 克幸	全4回中4回
白柳 正義	全1回中1回
近 健太	全3回中3回

監査役協議会における主な検討事項は、監査の方針および監査実施計画、内部統制システムの整備・運用状況、会計監査人の監査の方法および結果の相当性等である。

また、監査役としての活動として、取締役等との意思疎通、取締役会その他重要な会議への出席、重要な決裁書類等の閲覧、本社・事業所における業務および財産状況の調査、子会社の取締役等および監査役との意思疎通・情報交換や子会社からの事業報告の確認、内部監査部門・会計監査人からの監査の実施状況・結果の報告の確認を行っている。

内部監査の状況

TF Sグループの内部監査は、TF S（7名の内部監査人、以下同）によるグローバル監査、地域統括本部（6名）による地域監査、各子会社（84名）による個社内部監査の三層構造で実施されている。各層間の責務、連携は「TF Sグループ内部監査権限規程」において調整され、各層の取締役会、監査役会にて承認を受けた年度監査計画に基づき、リスクベースで総合的な業務監査を行っている。ガバナンス、リスクマネジメント、コントロールの有効性評価を行い、その結果は要改善事項の提案とともに、各層の経営責任者、監査役に報告されている。

監査役、会計監査それぞれと情報交換を実施している。リスクマネジメント、コンプライアンス管轄部署とも常時情報共有を行い、相互連携を図っている。

会計監査の状況

イ 監査法人の名称

PwCあらた有限責任監査法人

ロ 継続監査期間

2001年3月期以降

なお、TF Sは2007年3月期以降、継続してPwCあらた有限責任監査法人による監査を受けている。また、2001年3月期から2006年3月期まで継続してPwCあらた有限責任監査法人の前身である旧中央青山監査法人による監査を受けていたため、その期間を含めて記載している。

ハ 業務を執行した公認会計士

男澤 顕

山口 健志

ニ 監査業務に係る補助者の構成

監査法人の選定基準に基づき決定されている。具体的には、公認会計士を主たる構成員とし、その補助者も加えて構成されている。

ホ 監査法人の選定方針と理由

T F S はトヨタ自動車株式会社の連結子会社であり、トヨタ自動車株式会社は会計監査人としてP w C あらた有限責任監査法人を選任していることから、会計監査人を統一することでグループにおける連結決算監査及びガバナンスの有効性、効率性等の向上が図れると判断したためである。

へ 監査役による監査法人の評価

T F S の監査役は、監査法人に対し評価を行っている。P w C あらた有限責任監査法人の監査計画・監査方法・結果について相当であり、また会計監査人の職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制整備及び外部機関による検査も適切に実施されていると評価している。

監査報酬の内容等

イ 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
トヨタファイナンシャルサービス株式会社	72		72	
連結子会社	94	33	109	30
計	166	33	182	30

ロ 監査公認会計士等と同一のネットワーク(プライスウォーターハウスクーパース)に対する報酬(イを除く)

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
トヨタファイナンシャルサービス株式会社				
連結子会社	1,115	468	1,235	739
計	1,115	468	1,235	739

上記イ及びロの報酬に関する前連結会計年度及び当連結会計年度における連結子会社の非監査業務の内容は、コンフォートレター作成業務等である。

ハ 監査報酬の決定方針

監査日数等を勘案した上で決定している。

(4) 役員の報酬等

該当事項はない。

(5) 株式の保有状況

該当事項はない。

第5 経理の状況

連結財務諸表及び中間連結財務諸表並びに財務諸表及び中間財務諸表の作成方法について

- (1) T F Sの連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下、「連結財務諸表規則」という。)に基づき作成している。
- (2) T F Sの中間連結財務諸表は、「中間連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成11年大蔵省令第24号)に基づき作成している。
- (3) T F Sの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づき作成している。
- (4) T F Sの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)に基づき作成している。
- (5) T F Sは、継続開示会社に該当しないため、「企業内容等の開示に関する内閣府令」(昭和48年大蔵省令第5号)に基づき、連結キャッシュ・フロー計算書の記載を省略している。
- (6) T F Sは、継続開示会社に該当しないため、「企業内容等の開示に関する内閣府令」(昭和48年大蔵省令第5号)に基づき、中間連結キャッシュ・フロー計算書の記載を省略している。

1 連結財務諸表等

(1) 連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)		当連結会計年度 (2020年3月31日)	
資産の部				
流動資産				
現金及び預金		571,170		743,542
営業債権	5, 6	15,729,259	5, 6	15,864,958
リース債権及びリース投資資産		1,497,388		1,552,013
有価証券		276,631		744,871
その他		566,467		705,958
貸倒引当金		176,266		224,773
流動資産合計		18,464,651		19,386,571
固定資産				
有形固定資産				
賃貸資産(純額)	5, 6	4,494,000	5, 6	4,294,527
その他		9,474		28,759
有形固定資産合計	1	4,503,474	1	4,323,286
無形固定資産		36,884		37,819
投資その他の資産				
投資有価証券	2	365,419	2	415,387
その他	2	290,192	2	411,079
投資その他の資産合計		655,611		826,467
固定資産合計		5,195,969		5,187,573
資産合計		23,660,621		24,574,145

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)		当連結会計年度 (2020年3月31日)	
負債の部				
流動負債				
短期借入金	5	1,130,702	5	1,236,789
1年以内返済予定の長期借入金	5, 6	1,739,114	5, 6	2,047,580
1年以内償還予定の社債	5	2,289,804	5	2,377,561
コマーシャルペーパー		3,871,603		4,102,796
その他の引当金		32,471		35,880
その他		1,223,156		1,241,254
流動負債合計		10,286,853		11,041,863
固定負債				
社債	5	6,655,252	5	6,474,307
長期借入金	5, 6	3,052,704	5, 6	3,243,564
繰延税金負債		686,236		676,286
その他の引当金		17,398		15,845
退職給付に係る負債		15,877		16,653
その他		52,893		99,894
固定負債合計		10,480,363		10,526,551
負債合計		20,767,217		21,568,415
純資産の部				
株主資本				
資本金		78,525		78,525
資本剰余金		159,900		159,900
利益剰余金		2,653,758		2,877,595
株主資本合計		2,892,183		3,116,020
その他の包括利益累計額				
その他有価証券評価差額金		1,184		65
繰延ヘッジ損益		3,217		1,221
為替換算調整勘定		43,981		157,597
その他の包括利益累計額合計		39,579		156,440
非支配株主持分		40,799		46,150
純資産合計		2,893,403		3,005,729
負債純資産合計		23,660,621		24,574,145

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)	
資産の部		
流動資産		
現金及び預金		1,021,382
営業債権	4, 5	15,929,808
リース債権及びリース投資資産		1,654,355
有価証券		1,231,156
その他		656,582
貸倒引当金		271,968
流動資産合計		20,221,316
固定資産		
有形固定資産		
賃貸資産(純額)	4, 5	4,182,252
その他		29,165
有形固定資産合計	1	4,211,417
無形固定資産		38,447
投資その他の資産		845,364
固定資産合計		5,095,229
資産合計		25,316,546

(単位：百万円)

当中間連結会計期間
(2020年9月30日)

負債の部

流動負債

短期借入金	4	958,399
1年以内返済予定の長期借入金	4, 5	2,452,771
1年以内償還予定の社債	4	2,680,804
コマーシャルペーパー		3,388,820
その他の引当金		40,540
その他		1,385,367
流動負債合計		10,906,704

固定負債

社債	4	6,659,775
長期借入金	4, 5	3,870,587
繰延税金負債		581,703
その他の引当金		14,884
退職給付に係る負債		17,260
その他		118,403
固定負債合計		11,262,615

負債合計

22,169,319

純資産の部

株主資本

資本金		78,525
資本剰余金		159,900
利益剰余金		3,030,889
株主資本合計		3,269,315

その他の包括利益累計額

その他有価証券評価差額金		1,739
繰延ヘッジ損益		788
為替換算調整勘定		174,760
その他の包括利益累計額合計		172,233

非支配株主持分

50,144

純資産合計

3,147,226

負債純資産合計

25,316,546

連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	2,141,906	2,200,557
売上原価	2,143,668	2,142,139
売上総利益	706,237	772,417
販売費及び一般管理費	1,424,429	1,524,541
営業利益	281,807	247,876
営業外収益		
為替差益		305
持分法による投資利益	3,651	6,308
償却債権取立益	25,606	25,070
その他	3,092	2,926
営業外収益合計	32,350	34,610
営業外費用		
固定資産処分損	298	486
為替差損	234	
その他	318	671
営業外費用合計	851	1,157
経常利益	313,306	281,329
特別利益		
持分変動利益		3,919
特別利益合計		3,919
特別損失		
競争法関連損失引当金繰入額	5,535	
投資有価証券評価損		708
特別損失合計	5,535	708
税金等調整前当期純利益	307,771	284,539
法人税、住民税及び事業税	53,897	57,604
法人税等調整額	27,196	5,159
法人税等合計	81,093	62,764
当期純利益	226,678	221,775
非支配株主に帰属する当期純利益	4,369	2,061
親会社株主に帰属する当期純利益	222,308	223,836

連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
当期純利益	226,678	221,775
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,745	1,249
繰延ヘッジ損益	207	1,618
為替換算調整勘定	41,592	113,202
持分法適用会社に対する持分相当額	2,594	2,156
その他の包括利益合計	1 40,535	1 118,227
包括利益	267,214	103,547
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	262,499	106,975
非支配株主に係る包括利益	4,714	3,427

中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	当中間連結会計期間 (自 2020年 4月 1日 至 2020年 9月30日)
売上高	1,071,805
売上原価	2 619,125
売上総利益	452,679
販売費及び一般管理費	1 230,289
営業利益	222,390
営業外収益	
償却債権取立益	9,832
持分法による投資利益	2,299
その他	1,295
営業外収益合計	13,427
営業外費用	
固定資産処分損	153
その他	193
営業外費用合計	347
経常利益	235,470
税金等調整前中間純利益	235,470
法人税、住民税及び事業税	141,087
法人税等調整額	82,450
法人税等合計	58,637
中間純利益	176,833
非支配株主に帰属する中間純利益	206
親会社株主に帰属する中間純利益	177,039

中間連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
中間純利益	176,833
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	1,804
繰延ヘッジ損益	1,086
為替換算調整勘定	16,584
持分法適用会社に対する持分相当額	99
その他の包括利益合計	15,767
中間包括利益	161,066
(内訳)	
親会社株主に係る中間包括利益	161,246
非支配株主に係る中間包括利益	180

連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	78,525	159,900	2,545,223	2,783,648
会計方針の変更による累積的影響額			13,773	13,773
会計方針の変更を反映した当期首残高	78,525	159,900	2,531,449	2,769,875
当期変動額				
剰余金の配当			100,000	100,000
親会社株主に帰属する当期純利益			222,308	222,308
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計			122,308	122,308
当期末残高	78,525	159,900	2,653,758	2,892,183

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	560	2,667	81,877	79,770	29,432	2,733,310
会計方針の変更による累積的影響額					661	14,435
会計方針の変更を反映した当期首残高	560	2,667	81,877	79,770	28,771	2,718,875
当期変動額						
剰余金の配当						100,000
親会社株主に帰属する当期純利益						222,308
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,745	550	37,895	40,190	12,028	52,219
当期変動額合計	1,745	550	37,895	40,190	12,028	174,528
当期末残高	1,184	3,217	43,981	39,579	40,799	2,893,403

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	78,525	159,900	2,653,758	2,892,183
当期変動額				
親会社株主に帰属する 当期純利益			223,836	223,836
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)				
当期変動額合計			223,836	223,836
当期末残高	78,525	159,900	2,877,595	3,116,020

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	1,184	3,217	43,981	39,579	40,799	2,893,403
当期変動額						
親会社株主に帰属する 当期純利益						223,836
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	1,250	1,995	113,615	116,860	5,350	111,510
当期変動額合計	1,250	1,995	113,615	116,860	5,350	112,326
当期末残高	65	1,221	157,597	156,440	46,150	3,005,729

中間連結株主資本等変動計算書

当中間連結会計期間(自 2020年 4月 1日 至 2020年 9月30日)

(単位: 百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	78,525	159,900	2,877,595	3,116,020
会計方針の変更による累積的影響額			23,744	23,744
会計方針の変更を反映した当期首残高	78,525	159,900	2,853,850	3,092,275
当中間期変動額				
親会社株主に帰属する中間純利益			177,039	177,039
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)				
当中間期変動額合計			177,039	177,039
当中間期末残高	78,525	159,900	3,030,889	3,269,315

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	65	1,221	157,597	156,440	46,150	3,005,729
会計方針の変更による累積的影響額						23,744
会計方針の変更を反映した当期首残高	65	1,221	157,597	156,440	46,150	2,981,985
当中間期変動額						
親会社株主に帰属する中間純利益						177,039
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	1,804	433	17,163	15,792	3,994	11,798
当中間期変動額合計	1,804	433	17,163	15,792	3,994	165,241
当中間期末残高	1,739	788	174,760	172,233	50,144	3,147,226

注記事項

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 64社

主要な連結子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため、省略した。

なお、当連結会計年度より、FAXI(株)、トヨタ ファイナンシャル サービス チャイナ(有)、トヨタフリートモビリティ イタリア(株)、トヨタフリートモビリティ スペイン(有)、トヨタフリートモビリティ フランス(株)、インチケープ フリート ソリューションズ(株)、トヨタファイナンシャルサービス シンガポール(株)、フィンログ(株)及びカエタノ レンティング セネガル(株)を新規出資により連結の範囲に含めることとした。

2 持分法の適用に関する事項

(イ)持分法適用の関連会社数 9社

なお、当連結会計年度より、マツダクレジット(株)(旧 SMMオートファイナンス(株))及びトヨタ モビリティ サービス (海南)(有)について、新規出資により持分法適用の範囲に含めることとした。

(ロ)持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度に係る財務諸表を使用している。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日(3月31日)と異なる主な会社は次のとおりである。

決算日	会社名
12月31日	トヨタ モーター ファイナンス チャイナ(有)

連結財務諸表作成にあたっては、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用している。

4 在外子会社及び在外関連会社の会計方針に関する事項

在外子会社及び在外関連会社の連結にあたっては、原則として米国会計基準もしくは国際財務報告基準に準拠して作成された財務諸表を採用している。

5 会計方針に関する事項

(イ)重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

...決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として個別法により算定している。ただし、米国会計基準に準拠して財務諸表を作成している在外子会社及び在外関連会社が保有する持分投資の評価差額は純損益に計上している。)

時価のないもの

...主として総平均法による原価法

デリバティブ

...時価法

(ロ)重要な減価償却資産の減価償却の方法

賃貸資産

主としてリース期間満了時の処分見積額を残存価額とする定額法によっている。なお、賃貸資産の処分損失に備えるため、減価償却費を追加計上している。

(ハ)重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸し倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により計上している。

この他に保証業務から生ずる債権の貸し倒れによる損失に備えるため、保証履行に伴う求償債権等未収債権に対する回収不能見込額を過去の貸倒実績率等により見積り、計上している。

(二)退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっている。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異及び過去勤務費用は、発生年度に一括費用処理している。

複数事業主制度については、確定拠出制度と同様に処理している。

(ホ)重要な収益及び費用の計上基準

ファイナンス・リース

国内子会社

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっている。

在外子会社

売上高を計上せずに利息相当額を各期へ配分する方法によっている。

オペレーティング・リース

リース料総額をリース期間に按分し毎月均等額を収益に計上している。

融資

主として利息法(元本残高に対して一定の料率で計算した利息の額を収益計上する方法)によっている。

(ヘ)重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理している。

なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上している。

(ト)重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

国内子会社は原則として繰延ヘッジ処理によっている。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっている。

ヘッジ手段とヘッジ対象

当連結会計年度にヘッジ会計を適用した主なヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりである。

ヘッジ手段...金利スワップ

ヘッジ対象...借入金、社債

ヘッジ方針

資金調達に係る金利リスクをヘッジする目的でデリバティブ取引を行っている。

ヘッジ有効性評価の方法

・事前テスト

比率分析もしくは回帰分析等の統計的手法

・事後テスト

比率分析

(チ)組替再表示

過年度の金額は、当連結会計年度の表示に合わせて組み替えて再表示されている。

(未適用の会計基準等)

(米国会計基準ASU 2016-13「金融商品に係る信用損失の測定」)

当該基準は、金融商品の信用損失の測定に関するものであり、特定の種類の金融商品において、信用損失を見積もるための予想損失に基づくアプローチを導入するものである。当該基準は、米国会計基準に準拠して財務諸表を作成している在外子会社及び在外関連会社において2019年12月15日以後開始の事業年度及びその期中会計期間から適用される。2021年3月期の期首より適用予定であり、当該基準の適用により、2021年3月期期首の利益剰余金が31,783百万円減少する見込みである。

(企業会計基準適用指針第19号「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(2020年3月31日))

当該基準が改訂され、金融商品の時価のレベルごとの内訳等の注記事項が定められた。2022年3月期の期首より適用予定である。

(企業会計基準第24号「会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(2020年3月31日))

当該基準は、関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に、採用した会計処理の原則及び手続きの概要を示すことを目的とするものである。2021年3月期の年度末より適用予定である。

(企業会計基準第31号「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(2020年3月31日))

当該基準は、当年度の財務諸表に計上した金額が会計上の見積りによるもののうち、翌年度の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目における会計上の見積りの内容について、財務諸表利用者の理解に資する情報を開示することを目的とするものである。2021年3月期の年度末より適用予定である。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	1,268,721百万円	1,240,224百万円

2 関連会社に対するものは、次のとおりである。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
投資有価証券(株式)	38,297百万円	70,646百万円
(うち、共同支配企業に対する投資の金額)	19,580	18,503
投資その他の資産その他(出資金)	428	899
(うち、共同支配企業に対する投資の金額)	428	899

3 偶発債務

トヨタ販売店及びレンタリース店等が一般顧客に割賦販売等を行うに当たり、連結子会社がトヨタ販売店及びレンタリース店等に対して保証業務として債務保証を行っている。

また、連結子会社以外のトヨタグループ会社が行った資金調達に対し、債務保証を行っている。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
連結子会社の営業上の債務保証	3,429,411百万円	3,781,478百万円
トヨタ ファイナンシャル サービス サウス アフリカ(株)	50,211	40,856
その他	12,527	12,201
合計	3,492,150	3,834,535

4 当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る貸出未実行残高

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
貸出未実行残高	3,826,278百万円	3,966,358百万円

なお、上記当座貸越契約及び貸出コミットメントにおいては、信用状態等に関する審査を貸出実行の条件としているものが含まれているため、必ずしも全額が貸出実行されるものではない。

5 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
営業債権	1,912,312百万円	2,004,027百万円
貸貸資産(純額)	609,694	621,632

担保付債務

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
短期借入金	59,166百万円	11,955百万円
1年以内返済予定の長期借入金	933,641	1,048,844
長期借入金	884,746	925,164
1年以内償還予定の社債	23,331	20,361
社債	29,787	14,264

6 ノンリコース債務

借入金に含まれるノンリコース債務

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
長期借入金(1年以内返済予定の 長期借入金を含む)のうち、ノン リコース債務	1,793,475百万円	1,957,684百万円

ノンリコース債務に対応する資産

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
営業債権	1,745,592百万円	1,795,904百万円
賃貸資産(純額)	609,694	621,632

(連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりである。

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
従業員給与・手当	88,982百万円	92,216百万円
貸倒引当金繰入額	97,736	157,321

- 2 売上原価には、デリバティブ関連損益が含まれている。

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
デリバティブ関連損益	(損)23,414百万円	(損)19,521百万円

(連結包括利益計算書関係)

- 1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	588百万円	1,939百万円
組替調整額	1,248	92
税効果調整前	1,836	2,031
税効果額	91	782
その他有価証券評価差額金	1,745	1,249
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	1,021	1,163
組替調整額	1,318	1,153
税効果調整前	297	2,317
税効果額	89	698
繰延ヘッジ損益	207	1,618
為替換算調整勘定		
当期発生額	41,592	113,202
持分法適用会社に対する 持分相当額		
当期発生額	2,594	2,156
その他の包括利益合計	40,535	118,227

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,570,500			1,570,500

2 自己株式に関する事項

該当事項はない。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はない。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年3月18日 取締役会	普通株式	100,000	63,674	2019年2月28日	2019年3月19日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

該当事項はない。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,570,500			1,570,500

2 自己株式に関する事項

該当事項はない。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はない。

4 配当に関する事項

該当事項はない。

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(貸手側)

(1) リース投資資産の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
リース料債権部分	648,817百万円	649,404百万円
見積残存価額部分	478,293	469,047
受取利息相当額	99,535	101,031
合計	1,027,576	1,017,421

(2) リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の連結決算日後の回収予定額

リース債権

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
1年以内	169,741百万円	198,314百万円
1年超2年以内	150,937	161,331
2年超3年以内	121,974	123,399
3年超4年以内	49,295	67,187
4年超5年以内	16,266	24,611
5年超	1,573	1,756

リース投資資産

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
1年以内	248,718百万円	250,591百万円
1年超2年以内	179,676	175,503
2年超3年以内	125,662	125,356
3年超4年以内	64,209	67,624
4年超5年以内	26,021	24,857
5年超	4,528	5,470

2 オペレーティング・リース取引

(貸手側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
1年以内	734,100百万円	726,749百万円
1年超	737,077	735,365
合計	1,471,177	1,462,114

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

TFSグループは、主として、トヨタ車、レクサス車を購入する顧客、及び販売店に対する融資プログラム及びリースプログラムの提供などの金融サービス事業を行っている。これらの事業を行うため、市場の状況を勘案し、長短のバランスを調整して、銀行借入による間接金融の他、社債やコマーシャルペーパーの発行、債権流動化による直接金融によって資金調達を行っている。このように、主として金利変動の影響を受ける金融資産及び金融負債を有しているため、そのリスクヘッジを目的としてデリバティブ取引も利用している。なお、TFSグループでは投機もしくはトレーディング目的でのデリバティブ取引は行っていない。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

TFSグループが保有する金融資産は、主として、顧客及び販売店に対する営業債権、リース債権及びリース投資資産であり、顧客や販売店の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されている。経済環境等の状況変化により顧客や販売店の信用状況が悪化した場合には、契約条件に従った債務履行がなされない可能性がある。

また、有価証券及び投資有価証券は、主に純投資目的で保有する債券、投資信託であり、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されている。

借入金、社債及びコマーシャルペーパーは、一定の環境下でTFSグループが市場を利用できなくなる場合など、必要な量の資金を確保できなくなる流動性リスクに晒されている。また、変動金利の資産及び負債については金利の変動リスクに晒されており、金利スワップ取引等を利用することにより当該リスクを抑制している。外貨建負債については為替の変動リスクに晒されており、社債の発行時に通貨スワップ取引等を利用することなどにより当該リスクを回避している。

デリバティブ取引には、為替予約取引、通貨スワップ取引、金利スワップ取引等があり、取引相手方の不履行が起こった場合の信用リスク(カウンターパーティーリスク)に晒されている。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 5 会計方針に関する事項 (ト)重要なヘッジ会計の方法」に記載している。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

TFSグループは、営業債権、リース債権及びリース投資資産等について、個別案件毎の与信審査、与信限度額、信用情報管理、内部格付、保証や担保の設定、問題債権への対応など、与信管理に関する体制を整備し運用している。

有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブや預金取引のカウンターパーティーリスクに関しては、信用情報やエクスポージャーを定期的に把握するほか、デリバティブ取引の時価に基づいて担保金を一部の取引相手と授受することにより、リスクの抑制を図っている。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

保有する金融資産及び金融負債が被りうる、為替や金利の変動による不利な影響を軽減するために、TFSグループでは資産及び負債の統合的な管理(ALM)を行っている。資金調達およびALMに関するグループ共通の指針を定め、金融資産と金融負債との通貨、期間、金利特性のマッチングを図ることを原則として運営している。特に金利変動リスクに関しては、金利感応度(100BPV)等の金利リスク指標について基準値を定め、定期的にモニタリングしている。

100BPVは、他のリスク変数が一定の場合、金利の100ベースポイント(1%)の上昇によって金融資産・金融負債の現在価値の純額がどれだけ変化するかを示す指標である。前連結会計年度まで開示していたVaRに比べ指標としてより簡明で基準管理に適することから、当連結会計年度より100BPVを重視して管理を行っている。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 2019年3月31日	当連結会計年度 2020年3月31日
金利感応度(100BPV)	(減少)81,047	(減少)103,451

有価証券及び投資有価証券については、時価の把握を定期的に行うことにより管理している。

デリバティブ取引の実行及び管理については、資金担当部門が取引権限及び取引限度等について定めたルールに基づき、ヘッジ目的に沿った内容の取引を行っている。

なお、在外子会社への投資に係るものを除き、TFSグループに重要な為替リスクはない。

資金調達に係る流動性リスク(必要な量の資金を確保できなくなるリスク)の管理

TFSグループは、ALMを通して資金管理を行うほか、資金調達手段の多様化、複数の金融機関からのコミットメントラインの取得、市場環境を考慮した長短の調達バランスの調整などによって、流動性リスクを管理している。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれている。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもある。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではない。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりである。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めていない(注2)参照)。

前連結会計年度(2019年3月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	571,170	571,170	
(2) 営業債権	15,729,259		
貸倒引当金(1)	146,536		
	15,582,723	15,746,872	164,149
(3) リース債権及び リース投資資産(2)	1,019,094		
貸倒引当金(1)	26,041		
	993,053	1,068,214	75,160
(4) 有価証券及び投資有価証券	588,943	588,943	
資産計	17,735,890	17,975,200	239,310
(1) 短期借入金	1,130,702	1,130,702	
(2) コマーシャルペーパー	3,871,603	3,871,603	
(3) 社債(3)	8,945,057	9,069,745	124,687
(4) 長期借入金(4)	4,791,819	4,812,415	20,596
負債計	18,739,183	18,884,467	145,283
デリバティブ取引(5)			
ヘッジ会計が 適用されていないもの	49,100	50,490	99,590
ヘッジ会計が 適用されているもの	927	2,362	1,434
デリバティブ取引計	50,027	48,128	98,156

(1) 営業債権、リース債権及びリース投資資産に対応する貸倒引当金を控除している。

(2) リース債権及びリース投資資産は、見積残存価額を控除している。

(3) 社債には、1年以内償還予定の社債及び社債を含んでいる。

(4) 長期借入金には、1年以内返済予定の長期借入金及び長期借入金を含んでいる。

(5) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務()は、純額で表示している。

また、連結貸借対照表計上額については、在外子会社の取引の一部につき関連する担保金額を控除している。

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	743,542	743,542	
(2) 営業債権	15,864,958		
貸倒引当金(1)	189,569		
	15,675,388	15,772,971	97,582
(3) リース債権及び リース投資資産(2)	1,082,965		
貸倒引当金(1)	30,600		
	1,052,365	1,135,276	82,911
(4) 有価証券及び投資有価証券	1,098,262	1,108,003	9,741
資産計	18,569,558	18,759,793	190,235
(1) 短期借入金	1,236,789	1,236,789	
(2) コマーシャルペーパー	4,102,796	4,102,796	
(3) 社債(3)	8,851,868	8,885,639	33,770
(4) 長期借入金(4)	5,291,144	5,303,940	12,795
負債計	19,482,599	19,529,165	46,566
デリバティブ取引(5)			
ヘッジ会計が 適用されていないもの	161,679	21,584	183,263
ヘッジ会計が 適用されているもの	1,011	2,815	1,803
デリバティブ取引計	162,690	18,769	181,459

(1) 営業債権、リース債権及びリース投資資産に対応する貸倒引当金を控除している。

(2) リース債権及びリース投資資産は、見積残存価額を控除している。

(3) 社債には、1年以内償還予定の社債及び社債を含んでいる。

(4) 長期借入金には、1年以内返済予定の長期借入金及び長期借入金を含んでいる。

(5) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務()は、純額で表示している。

また、連結貸借対照表計上額については、在外子会社の取引の一部につき関連する担保金額を控除している。

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

これらの時価は、帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっている。

(2) 営業債権、(3) リース債権及びリース投資資産

これらの時価は、主に債権額を満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によっている。

(4) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価は、主に取引所の価格又は見積り将来キャッシュ・フローを市場利子率で割引く方法により算定している。

保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記参照。

負 債

(1) 短期借入金、(2) コマーシャルペーパー

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(3) 社債

社債については、主に入手可能であれば市場価格、不可能である場合は元利金の合計額を同様の社債を新規に発行した場合に想定される利率で割り引いて時価を算定している。

(4) 長期借入金

長期借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、TFSグループの信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっている。固定金利によるものは、主に元利金の合計額を同様の新規借入において想定される利率で割り引いて時価を算定している。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記参照。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 2019年3月31日	当連結会計年度 2020年3月31日
非上場株式	53,107	61,997

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)有価証券及び投資有価証券」には含めていない。

(注3)金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超
現金及び預金	571,170		
営業債権	6,403,950	8,411,615	729,508
リース債権及びリース投資資産	363,834	638,032	5,298
有価証券及び投資有価証券			
その他有価証券のうち満期があるもの			
債券			
国債・地方債等	19,319	11,116	16,277
社債その他	554	6,335	22,190
その他	158,187		386
その他有価証券のうち満期があるもの 計	178,062	17,452	38,853
合計	7,517,017	9,067,100	773,660

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超
現金及び預金	743,542		
営業債権	6,417,796	8,503,251	733,836
リース債権及びリース投資資産	391,688	672,644	6,283
有価証券及び投資有価証券			
その他有価証券のうち満期があるもの			
債券			
国債・地方債等	6,628	13,649	18,048
社債その他	5,507	6,075	27,756
その他	427,185		387
その他有価証券のうち満期があるもの 計	439,321	19,725	46,191
合計	7,992,348	9,195,621	786,311

(注4)社債、長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超
短期借入金	1,130,702		
コマーシャルペーパー	3,871,603		
社債	2,291,171	5,948,505	730,755
長期借入金	1,739,114	2,857,271	195,432
合計	9,032,592	8,805,777	926,188

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超
短期借入金	1,236,789		
コマーシャルペーパー	4,102,796		
社債	2,378,722	5,745,410	750,990
長期借入金	2,047,580	3,060,465	183,098
合計	9,765,888	8,805,876	934,089

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	2,919	2,118	800
債券			
国債・地方債等	5,613	5,457	156
社債その他	28,463	28,181	282
その他	225,714	224,452	1,261
小計	262,711	260,209	2,501
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	70	70	
債券			
国債・地方債等	41,431	41,504	73
社債その他	785	790	5
その他	283,945	284,723	778
小計	326,232	327,089	857
合計	588,943	587,299	1,644

(注) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めていない。

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式			
債券			
国債・地方債等	25,831	23,786	2,044
社債その他	20,171	19,126	1,045
その他	207,000	200,319	6,680
小計	253,003	243,232	9,771
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	5,001	7,743	2,741
債券			
国債・地方債等	14,672	14,672	
社債その他	18,792	19,384	591
その他	789,288	791,206	1,918
小計	827,754	833,006	5,251
合計	1,080,758	1,076,239	4,519

(注) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めていない。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(2019年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

(単位:百万円)

	取引の種類	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建	12,634		56	56
	買建	348,912		3,080	3,080
	通貨スワップ取引				
	支払米ドル受取ユーロ	780,811	776,014	56,912	56,912
	支払米ドル受取豪ドル	461,126	403,909	23,862	23,862
	支払タイバーツ受取米ドル	464,129	333,936	13,745	13,745
	支払ユーロ受取米ドル	284,452	147,208	13,476	13,476
	その他	1,911,461	1,170,506	51,211	51,211
	合計	4,263,529	2,831,575	26,807	26,807

(注) 時価の算定方法

主として将来キャッシュ・フローを見積もり、それを適切な市場利子率で割引く方法等により算定している。

(2) 金利関連

(単位:百万円)

	取引の種類	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	金利スワップ取引				
	受取固定・支払変動	4,911,719	4,024,301	4,914	4,914
	受取変動・支払固定	10,894,711	6,811,381	29,115	29,115
	受取変動・支払変動	482,556	271,521	518	518
	合計	16,288,987	11,107,203	23,682	23,682

(注) 時価の算定方法

主として期末日現在の金利等を基に将来予想されるキャッシュ・フローを現在価値に割引く方法等により算定している。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 金利関連

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
原則的 処理方法	金利スワップ取引				
	受取固定・支払変動	社債 借入金	44,000	44,000	929
	受取変動・支払固定		5,000		2
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引	借入金			
	受取固定・支払変動		155,500	155,500	1,434
	合計		204,500	199,500	2,362

(注) 時価の算定方法

主として期末日現在の金利等を基に将来予想されるキャッシュ・フローを現在価値に割引く方法等により算定している。

当連結会計年度(2020年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

(単位:百万円)

	取引の種類	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価	評価損益
市場取引 以外の 取引	為替予約取引				
	売建	4,196		83	83
	買建	422,594		14,491	14,491
	通貨スワップ取引				
	支払米ドル受取ユーロ	881,811	653,728	69,050	69,050
	支払米ドル受取豪ドル	441,987	350,086	67,285	67,285
	支払タイバーツ 受取米ドル	394,207	362,347	6,386	6,386
	支払加ドル受取米ドル	265,757	122,917	19,884	19,884
	支払豪ドル受取米ドル その他	248,095 1,993,879	143,492 1,381,336	44,249 100,668	44,249 100,668
	合計	4,652,529	3,013,908	36,653	36,653

(注) 時価の算定方法

主として将来キャッシュ・フローを見積もり、それを適切な市場利子率で割引く方法等により算定している。

(2) 金利関連

(単位:百万円)

	取引の種類	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価	評価損益
市場取引 以外の 取引	金利スワップ取引				
	受取固定・支払変動	4,645,802	4,034,155	177,949	177,949
	受取変動・支払固定	9,984,114	6,426,895	236,891	236,891
	受取変動・支払変動	401,348	275,699	704	704
	合計	15,031,265	10,736,749	58,237	58,237

(注) 時価の算定方法

主として期末日現在の金利等を基に将来予想されるキャッシュ・フローを現在価値に割引く方法等により算定している。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 金利関連

(単位:百万円)

ヘッジ会計 の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
原則的 処理方法	金利スワップ取引	社債 借入金	44,000	44,000	1,011
	受取固定・支払変動				
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引	借入金	155,500	143,500	1,803
	合計		199,500	187,500	2,815

(注) 時価の算定方法

主として期末日現在の金利等を基に将来予想されるキャッシュ・フローを現在価値に割引く方法等により算定している。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

国内子会社は、主に退職金制度の一部について確定拠出制度を採用し、残額については退職一時金を充当している。また、一部の在外子会社は、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用している。

なお、一部の在外子会社は複数事業主制度を設けている。

2 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度への要拠出額は、前連結会計年度3,706百万円、当連結会計年度2,782百万円であった。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
年金資産の額	458,931百万円	470,647百万円
年金財政計算上の数理債務の額	444,701	487,375
差引額	14,230	16,728

(2) 制度全体に占めるトヨタファイナンシャルサービス株式会社グループの給与総額割合

前連結会計年度 27.9%(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当連結会計年度 27.7%(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(3) 補足説明

上記(1)の前連結会計年度及び当連結会計年度における差引額の主な要因は、年金資産の実際運用収益等によるものである。

3 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
退職給付債務の期首残高	31,408百万円	33,856百万円
勤務費用	1,784	1,529
利息費用	615	529
退職給付の支払額	816	1,018
その他	864	2,537
退職給付債務の期末残高	33,856	32,359

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

重要性がないため記載を省略している。

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	23,703百万円	21,771百万円
年金資産	17,978	15,981
	5,725	5,789
非積立型制度の退職給付債務	10,152	10,587
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	15,877	16,377
退職給付に係る負債	15,877	16,653
退職給付に係る資産		275
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	15,877	16,377

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
勤務費用	1,784百万円	1,529百万円
その他	417	417
確定給付制度に係る退職給付費用	2,201	1,946

(5) 年金資産に関する事項

重要性がないため記載を省略している。

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
割引率	0.1% ~ 3.2%	0.1% ~ 3.9%

4 確定拠出制度

重要性がないため記載を省略している。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)			
繰延税金資産					
貸倒引当金	40,768百万円	47,032百万円			
税務上の繰越欠損金	250,518	9,619			
その他	114,467	54,554			
繰延税金資産小計	405,755	111,206			
評価性引当額	6,836	8,453			
繰延税金資産合計	398,918	102,752			
繰延税金負債					
償却資産	977,125	661,852			
その他	50,188	57,095			
繰延税金負債合計	1,027,314	718,947			
繰延税金資産(負債)の純額	628,395	616,195			
	(注)繰延税金負債の純額は、連結貸借対照表の以下の科目に含まれている。	(注)繰延税金負債の純額は、連結貸借対照表の以下の科目に含まれている。			
	(百万円)	(百万円)			
固定資産	投資その他の資産その他	57,841	固定資産	投資その他の資産その他	60,091
固定負債	繰延税金負債	686,236	固定負債	繰延税金負債	676,286

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
法定実効税率	30.5%	30.6%
(調整)		
在外子会社税率差異	6.2	6.4
その他	2.1	2.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	26.3	22.1

(企業結合等関係)

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 フィンログ㈱

事業の内容 オペレーティングリース(フルサービスリース含む)、フリートマネジメント、及びモビリティサービス

企業結合を行った主な理由

欧州におけるフルサービスリース事業の拡大により企業価値向上を図ることを目的としたものである。

企業結合日

2020年2月28日

企業結合の法的形式

現金を対価とする株式の取得

結合後企業の名称

変更はない。

取得した議決権比率

51%

取得企業を決定するに至った主な根拠

TFSの連結子会社であるトヨタフリートモビリティ(有)が、現金を対価としてフィンログ㈱の株式を取得したため。

(2) 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2020年2月28日から2020年3月31日まで

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	2,853百万円
取得原価		2,853百万円

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

発生したのれん金額

1,611百万円

発生原因

取得原価が、取得した資産及び引き受けた負債に配分された純額を上回ったため、その超過額をのれんとして計上している。

償却方法及び償却期間

6年間にわたる均等償却

(5) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	3,959百万円
固定資産	17,495 "
資産合計	21,454 "
流動負債	15,521 "
固定負債	3,498 "
負債合計	19,020 "

(6) 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

売上高	17,996百万円
営業利益	470 "
経常利益	149 "
税金等調整前当期純利益	149 "
親会社株主に帰属する 当期純利益	37 "
1株当たり当期純利益	23円59銭

(概算額の算定方法)

企業結合が連結会計年度開始の日に完了したと仮定して算定された売上高及び損益情報と、取得企業の連結損益計算書における売上高及び損益情報との差額を、影響の概算額としている。

なお、当該注記は監査証明を受けていない。

(セグメント情報等)

セグメント情報

1 報告セグメントの概要

T F Sグループの報告セグメントは、構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、マネジメントが、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものである。

T F Sグループは、主に、割賦金融、リース取引、卸売金融、保険仲介等の販売金融事業を営んでおり、国内及び海外の連結子会社が独立した経営単位として、各国の市場環境に応じた事業活動を展開している。

従って、T F Sグループは国別のセグメントから構成されているが、米国及びカナダについては、経済的特徴等が概ね類似していることから「北米」とし、「日本」、「北米」、「タイ」を報告セグメントとしている。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一である。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値である。

セグメント間の内部収益及び振替高は、市場の実勢を勘案した価格に基づいている。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結財務諸 表計上額
	日本	北米	タイ	計				
売上高								
外部顧客への売上高	177,645	1,490,781	74,354	1,742,781	399,125	2,141,906		2,141,906
セグメント間の内部 売上高又は振替高	12	5,670	235	5,917	20,377	26,295	26,295	
計	177,658	1,496,451	74,589	1,748,699	419,502	2,168,201	26,295	2,141,906
セグメント利益	24,864	132,822	21,940	179,627	104,955	284,583	2,775	281,807
セグメント資産	1,627,806	13,470,340	1,275,603	16,373,750	5,346,897	21,720,648		21,720,648
その他の項目								
支払利息	507	292,913	27,231	320,652	152,156	472,809	16,405	456,403
減価償却費	4,955	704,003	998	709,957	57,406	767,363	21	767,385
貸倒引当金繰入額	8,554	52,443	15,060	76,057	21,678	97,736		97,736

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリア及び中国等の連結子会社の事業活動を含んでいる。

2 調整額は、以下のとおりである。

(1) セグメント利益の調整額 2,775百万円は、主にセグメント間取引消去である。

(2) 支払利息の調整額 16,405百万円は、主にセグメント間取引消去である。

3 「売上高」には、受取利息がそれぞれ、「日本」9,284百万円、「北米」406,525百万円、「タイ」78,162百万円、「その他」373,913百万円含まれている。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結財務諸 表計上額
	日本	北米	タイ	計				
売上高								
外部顧客への売上高	195,315	1,515,398	82,845	1,793,559	406,998	2,200,557		2,200,557
セグメント間の内部 売上高又は振替高	250	9,330		9,581	20,203	29,784	29,784	
計	195,566	1,524,729	82,845	1,803,140	427,201	2,230,342	29,784	2,200,557
セグメント利益	14,434	139,656	5,956	160,047	94,775	254,823	6,946	247,876
セグメント資産	1,765,75 5	13,437,659	1,258,54 5	16,461,960	5,249,53 9	21,711,499		21,711,499
その他の項目								
支払利息	1,642	306,917	28,521	337,080	148,021	485,102	18,409	466,693
減価償却費	5,796	683,618	1,239	690,654	64,166	754,821	20	754,841
貸倒引当金繰入額	11,000	78,842	21,470	111,313	46,008	157,321		157,321

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリア及び中国等の連結子会社の事業活動を含んでいる。

2 調整額は、以下のとおりである。

(1) セグメント利益の調整額 6,946百万円は、主にセグメント間取引消去である。

(2) 支払利息の調整額 18,409百万円は、主にセグメント間取引消去である。

3 「売上高」には、受取利息がそれぞれ、「日本」9,443百万円、「北米」443,881百万円、「タイ」90,394百万円、「その他」369,807百万円含まれている。

関連情報

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略している。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	米国	その他	合計
177,645	1,425,705	538,555	2,141,906

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類している。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	米国	その他	合計
3,278	4,212,914	287,281	4,503,474

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はない。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略している。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	米国	その他	合計
195,315	1,444,994	560,246	2,200,557

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類している。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	米国	その他	合計
8,816	3,975,148	339,322	4,323,286

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はない。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

重要性がないため記載を省略している。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

重要性がないため記載を省略している。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

重要性がないため記載を省略している。

関連当事者情報

1 関連当事者との取引

(1) トヨタファイナンスサービス株式会社と関連当事者との取引

トヨタファイナンスサービス株式会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有)割 合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	トヨタ 自動車(株)	愛知県 豊田市	635,401	自動車の製 造・販売	被所有 直接 100	資金の預入 役員の兼任 設備等の賃 借等	資金の預入	61,480	流動資産 - その他	77,400
									固定資産 - 投資その他 の資産その 他	151,080

- (注) 1 取引金額及び期末残高には消費税等を含まない。
2 取引条件及び取引条件の決定方針等
市場金利等を勘案して決定している。
3 取引の実態を明瞭に開示するため、取引金額は純額表示としている。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

重要性がないため記載を省略している。

(2) トヨタファイナンスサービス株式会社の連結子会社と関連当事者との取引

トヨタファイナンスサービス株式会社と同一の親会社を持つ会社等及びトヨタファイナンスサービス株式会社のその他の関係会社の子会社等

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

重要性がないため記載を省略している。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有)割 合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
同一の 親会社 を持つ 会社	トヨタモビ リティ東京(株)	東京都 港区	百万円 18,100	自動車の販 売・修理	なし	割賦信用保 証 役員の兼任	割賦信用保 証(注) 1	285,072		
同一の 親会社 を持つ 会社	米国トヨタ自 動車販売(株)	Plano, Texas, U.S.A.	千米ドル 365,000	自動車の販 売	なし	資金の借入	資金の借入	326,490	流動負債 - 短期借入金	326,490

- (注) 1 関連当事者が顧客に割賦販売等を行う場合、トヨタファイナンスサービス株式会社の連結子会社が信用調査の上承認した顧客について、債務の保証を行うもの。
2 取引金額及び期末残高には消費税等を含まない。
3 取引条件及び取引条件の決定方針等
市場金利等を勘案して決定している。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

トヨタ自動車(株)(東京、名古屋、ニューヨーク、ロンドンの各証券取引所に上場)

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり純資産額	1,816,366円85銭	1,884,482円41銭
1株当たり当期純利益金額	141,552円90銭	142,525円61銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	222,308	223,836
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	222,308	223,836
普通株式の期中平均株式数(株)	1,570,500	1,570,500

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	2,893,403	3,005,729
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円) 非支配株主持分	40,799	46,150
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	2,852,604	2,959,579
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通 株式の数(株)	1,570,500	1,570,500

(重要な後発事象)

該当事項はない。

(中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数

65社

主要な連結子会社名

トヨタファイナンス(株)

トヨタ モーター クレジット(株)

トヨタ モーター インシュランス サービス(株)

トヨタ クレジット カナダ(株)

トヨタ クレジットバンク(有)

トヨタ モーター ファイナンス(ネザーランド)(株)

トヨタ ファイナンシャル サービス(UK)(株)

トヨタファイナンシャルサービス イタリア(株)

トヨタ ファイナンス オーストラリア(株)

トヨタ リーシング タイランド(株)

トヨタ モーター ファイナンス チャイナ(有)

なお、当中間連結会計期間より、KINTO ブラジル モビリティ サービス(有)を新規出資により連結の範囲に含めることとした。

2 持分法の適用に関する事項

(イ) 持分法適用の関連会社数

9社

(ロ) 持分法適用会社のうち、中間決算日が中間連結決算日と異なる会社については、各社の中間会計期間に係る中間財務諸表を使用している。

3 連結子会社の中間決算日等に関する事項

連結子会社の中間決算日が中間連結決算日(9月30日)と異なる主な会社は次のとおりである。

中間決算日	会社名
6月30日	トヨタ モーター ファイナンス チャイナ(有)

中間連結財務諸表作成にあたっては、中間連結決算日現在で実施した仮決算に基づく中間財務諸表を使用している。

4 在外子会社及び在外関連会社の会計方針に関する事項

在外子会社及び在外関連会社の連結にあたっては、原則として米国会計基準もしくは国際財務報告基準に準拠して作成された財務諸表を採用している。

5 会計方針に関する事項

(イ) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

中間決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として個別法により算定している。ただし、米国会計基準に準拠して財務諸表を作成している在外子会社及び在外関連会社が保有する持分投資の評価差額は純損益に計上している。)

時価のないもの

主として総平均法による原価法

デリバティブ

時価法

(ロ) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

賃貸資産

主としてリース期間満了時の処分見積価額を残存価額とする定額法によっている。なお、賃貸資産の処分損失に備えるため、減価償却費を追加計上している。

(ハ) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸し倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により計上している。

この他に保証業務から生ずる債権の貸し倒れによる損失に備えるため、保証履行に伴う求償債権等未収債権に対する回収不能見込額を過去の貸倒実績率等により見積り、計上している。

(ニ) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間連結会計期間末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっている。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異及び過去勤務費用は、発生年度に一括費用処理している。

複数事業主制度については、確定拠出制度と同様に処理している。

(ホ) 重要な収益及び費用の計上基準

ファイナンス・リース

国内子会社

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっている。

在外子会社

売上高を計上せずに利息相当額を各期へ配分する方法によっている。

オペレーティング・リース

リース料総額をリース期間に按分し毎月均等額を収益に計上している。

融資

主として利息法(元本残高に対して一定の料率で計算した利息の額を収益計上する方法)によっている。

(ヘ) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、中間連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理している。なお、在外子会社等の資産及び負債は、中間連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上している。

(ト) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

国内子会社は原則として繰延ヘッジ処理によっている。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっている。

ヘッジ手段とヘッジ対象

当中間連結会計期間にヘッジ会計を適用した主なヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりである。

ヘッジ手段

金利スワップ

ヘッジ対象

借入金、社債

ヘッジ方針

資金調達に係る金利リスクをヘッジする目的でデリバティブ取引を行っている。

ヘッジ有効性評価の方法

- ・事前テスト
比率分析もしくは回帰分析等の統計的手法
- ・事後テスト
比率分析

(チ) 組替再表示

過年度の金額は、当中間連結会計期間の表示に合わせて組み替えて再表示されている。

(会計方針の変更)

(米国会計基準ASC 326 「金融商品に係る信用損失の測定」)

米国会計基準に準拠して財務諸表を作成している在外子会社及び在外関連会社において、ASC 326 「金融商品に係る信用損失の測定」を当中間連結会計期間より適用している。

これにより、主に償却原価区分の金融商品において、現在予想信用損失に基づくアプローチを導入し、当初認識時に全期間の予想信用損失を見積もっている。

当該会計基準の適用については、経過的な取り扱いに従って、本基準の適用による累積的影響額を適用開始日に認識する方法を採用し、当中間連結会計期間の期首の利益剰余金に加減している。

この結果、当中間連結会計期間の利益剰余金の期首残高は23,744百万円減少している。また、当中間連結会計期間の中間連結損益計算書に与える影響は軽微である。

(中間連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
有形固定資産の減価償却累計額	1,242,392百万円

2 偶発債務

トヨタ販売店及びレンタリース店等が一般顧客に割賦販売等を行うに当たり、連結子会社がトヨタ販売店及びレンタリース店等に対して保証業務として債務保証を行っている。

また、連結子会社以外のトヨタグループ会社が行った資金調達に対し、債務保証を行っている。

	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
連結子会社の営業上の債務保証	3,881,323百万円
トヨタ ファイナンシャル サービス サウス アフリカ(株)	35,633
その他	11,934
合計	3,928,891

3 当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る貸出未実行残高

	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
貸出未実行残高	4,364,234百万円

なお、上記当座貸越契約及び貸出コミットメントにおいては、信用状態等に関する審査を貸出実行の条件としているものが含まれているため、必ずしも全額が貸出実行されるものではない。

4 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産

	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
営業債権	2,586,804百万円
賃貸資産(純額)	699,266

担保付債務

	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
短期借入金	5,378百万円
1年以内返済予定の長期借入金	1,149,211
長期借入金	1,427,408
1年以内償還予定の社債	7,116
社債	19,245

5 ノンリコース債務

(1) 借入金に含まれるノンリコース債務

	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
長期借入金(1年以内返済予定の長期借入金を含む)のうち、ノンリコース債務	2,555,460百万円

(2) ノンリコース債務に対応する資産

	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
営業債権	2,368,248百万円
賃貸資産(純額)	699,266

(中間連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりである。

	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
従業員給与・手当	46,962百万円
貸倒引当金繰入額	58,548

2 売上原価には、デリバティブ関連損益が含まれている。

	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
デリバティブ関連損益	(益) 21,925百万円

(中間連結株主資本等変動計算書関係)

当中間連結会計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当中間連結会計期間末
普通株式(株)	1,570,500			1,570,500

2 自己株式に関する事項

該当事項はない。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はない。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はない。

(2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間後となるもの

該当事項はない。

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(貸手側)

(1) リース投資資産の内訳

	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
リース料債権部分	670,377百万円
見積残存価額部分	473,608
受取利息相当額	103,539
合計	1,040,446

(2) リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の中間連結会計期間末日後の回収予定額

リース債権

	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
1年以内	224,975百万円
1年超2年以内	184,729
2年超3年以内	137,748
3年超4年以内	76,614
4年超5年以内	32,310
5年超	2,392

リース投資資産

	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
1年以内	262,228百万円
1年超2年以内	176,793
2年超3年以内	127,940
3年超4年以内	73,883
4年超5年以内	23,900
5年超	5,631

2 オペレーティング・リース取引

(貸手側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
1年以内	713,065百万円
1年超	706,817
合計	1,419,882

(金融商品関係)

金融商品の時価等に関する事項

中間連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりである。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めていない(注2)参照)。

当中間連結会計期間(2020年9月30日)

(単位:百万円)

	中間連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,021,382	1,021,382	
(2) 営業債権	15,929,808		
貸倒引当金(1)	234,970		
	15,694,837	16,219,522	524,684
(3) リース債権及び リース投資資産(2)	1,180,747		
貸倒引当金(1)	32,809		
	1,147,937	1,223,595	75,658
(4) 有価証券及び投資有価証券 (3)	1,679,304	1,697,083	17,778
資産計	19,543,462	20,161,583	618,120
(1) 短期借入金	958,399	958,399	
(2) コマーシャルペーパー	3,388,820	3,388,820	
(3) 社債(4)	9,340,580	9,655,379	314,799
(4) 長期借入金(5)	6,323,359	6,352,673	29,314
負債計	20,011,159	20,355,273	344,114
デリバティブ取引(6)			
ヘッジ会計が 適用されていないもの	532	33,684	34,217
ヘッジ会計が 適用されているもの	942	2,620	1,678
デリバティブ取引計	1,475	31,063	32,538

(1) 営業債権、リース債権及びリース投資資産に対応する貸倒引当金を控除している。

(2) リース債権及びリース投資資産は、見積残存価額を控除している。

(3) 投資有価証券は、中間連結貸借対照表上投資その他の資産に含めて開示している。

(4) 社債には、1年以内償還予定の社債及び社債を含んでいる。

(5) 長期借入金には、1年以内返済予定の長期借入金及び長期借入金を含んでいる。

(6) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務()は、純額で表示している。

また、中間連結貸借対照表計上額については、在外子会社の取引の一部につき関連する担保金額を控除している。

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金

これらの時価は、帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっている。

(2) 営業債権、(3) リース債権及びリース投資資産

これらの時価は、主に債権額を満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によっている。

(4) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価は、主に取引所の価格又は見積り将来キャッシュ・フローを市場利子率で割引く方法により算定している。

保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記参照。

負債

(1) 短期借入金、(2) コマーシャルペーパー

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(3) 社債

社債については、主に入手可能であれば市場価格、不可能である場合は元利金の合計額を同様の社債を新規に発行した場合に想定される利率で割り引いて時価を算定している。

(4) 長期借入金

長期借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、TFSグループの信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっている。固定金利によるものは、主に元利金の合計額を同様の新規借入において想定される利率で割り引いて時価を算定している。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記参照。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の中間連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
非上場株式	63,389

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)有価証券及び投資有価証券」には含めていない。

(有価証券関係)

その他有価証券

当中間連結会計期間(2020年9月30日)

(単位:百万円)

	中間連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
中間連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの			
株式			
債券			
国債・地方債等	35,828	34,256	1,572
社債その他	30,466	28,473	1,992
その他	364,586	345,147	19,438
小計	430,881	407,877	23,003
中間連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの			
株式	6,083	7,763	1,680
債券			
国債・地方債等	9,942	9,945	2
社債その他	6,691	6,694	2
その他	1,208,569	1,208,605	36
小計	1,231,286	1,233,008	1,721
合計	1,662,168	1,640,886	21,282

(注) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めていない。

(デリバティブ取引関係)

当中間連結会計期間(2020年9月30日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

(単位:百万円)

	取引の種類	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建	17,584		24	24
	買建	525,416		1,258	1,258
	通貨スワップ取引				
	支払米ドル受取ユーロ	724,748	421,963	6,515	6,515
	支払豪ドル受取ユーロ	430,443	353,108	9,588	9,588
	支払米ドル受取豪ドル	429,072	299,120	658	658
	支払タイバーツ受取米ドル	410,104	315,845	18,388	18,388
	支払ユーロ受取米ドル	239,788	87,780	6,804	6,804
	その他	1,945,067	1,262,190	45,432	45,432
	合計	4,722,225	2,740,009	2,192	2,192

(注) 時価の算定方法

主として将来キャッシュ・フローを見積もり、それを適切な市場利子率で割引く方法等により算定している。

(2) 金利関連

(単位:百万円)

	取引の種類	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	金利スワップ取引				
	受取固定・支払変動	4,342,970	3,581,617	172,466	172,466
	受取変動・支払固定	9,433,721	5,957,805	209,220	209,220
	受取変動・支払変動	348,318	203,182	878	878
	合計	14,125,011	9,742,604	35,876	35,876

(注) 時価の算定方法

主として期末日現在の金利等を基に将来予想されるキャッシュ・フローを現在価値に割引く方法等により算定している。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 金利関連

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
原則的 処理方法	金利スワップ取引	社債 借入金	44,000	44,000	942
	受取固定・支払変動				
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引	借入金	155,500	143,500	1,678
	受取固定・支払変動				
	合計		199,500	187,500	2,620

(注) 時価の算定方法

主として期末日現在の金利等を基に将来予想されるキャッシュ・フローを現在価値に割引く方法等により算定している。

(セグメント情報等)

セグメント情報

1 報告セグメントの概要

TFSグループの報告セグメントは、構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、マネジメントが、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものである。

TFSグループは、主に、割賦金融、リース取引、卸売金融、保険仲介等の販売金融事業を営んでおり、国内及び海外の連結子会社が独立した経営単位として、各国の市場環境に応じた事業活動を展開している。

従って、TFSグループは国別のセグメントから構成されているが、米国及びカナダについては、経済的特徴等が概ね類似していることから「北米」とし、「日本」、「北米」、「タイ」を報告セグメントとしている。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一である。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値である。

セグメント間の内部収益及び振替高は、市場の実勢を勘案した価格に基づいている。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

当中間連結会計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	中間連結 財務諸表 計上額
	日本	北米	タイ	計				
売上高								
外部顧客への売上高	100,350	739,232	38,284	877,867	193,937	1,071,805		1,071,805
セグメント間の内部 売上高又は振替高	790	1,195		1,986	8,393	10,379	10,379	
計	101,140	740,428	38,284	879,853	202,331	1,082,184	10,379	1,071,805
セグメント利益	6,737	167,637	9,010	183,385	35,459	218,844	3,545	222,390
セグメント資産	1,794,991	13,189,364	1,299,490	16,283,846	5,482,570	21,766,416		21,766,416
その他の項目								
支払利息	2,878	146,921	12,570	162,370	66,719	229,089	8,022	221,067
減価償却費	3,659	325,789	508	329,957	34,694	364,651	19	364,670
貸倒引当金繰入額	7,751	28,785	9,096	45,634	12,914	58,548		58,548

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリア及び中国等の連結子会社の事業活動を含んでいる。

2 調整額は、以下のとおりである。

(1) セグメント利益の調整額3,545百万円は、主にセグメント間取引消去である。

(2) 支払利息の調整額 8,022百万円は、主にセグメント間取引消去である。

3 「売上高」には、受取利息がそれぞれ、「日本」4,813百万円、「北米」216,236百万円、「タイ」42,331百万円、「その他」173,957百万円含まれている。

関連情報

当中間連結会計期間(自 2020年 4月 1日 至 2020年 9月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が中間連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略している。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	米国	その他	合計
100,350	705,942	265,512	1,071,805

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類している。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	米国	その他	合計
17,160	3,806,193	388,062	4,211,417

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、中間連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はない。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

重要性がないため記載を省略している。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

重要性がないため記載を省略している。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

重要性がないため記載を省略している。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎ならびに1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
(1) 1株当たり純資産額	1,972,035円70銭
(算定上の基礎)	
純資産の部の合計額(百万円)	3,147,226
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円) 非支配株主持分	50,144
普通株式に係る中間期末の純資産額(百万円)	3,097,082
1株当たり純資産額の算定に用いられた 中間期末の普通株式の数(株)	1,570,500

項目	当中間連結会計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
(2) 1株当たり中間純利益金額	112,727円98銭
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する中間純利益金額(百万円)	177,039
普通株主に帰属しない金額(百万円)	
普通株式に係る親会社株主に帰属する 中間純利益金額(百万円)	177,039
普通株式の期中平均株式数(株)	1,570,500

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項はない。

連結附属明細表

社債明細表

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
トヨタファイ ナンス(株)	普通社債 (注) 1	2005年 ~ 2019年	520,999	547,000 (124,999)	0.00 ~ 1.91	なし	2019年 ~ 2028年
在外子会社	普通社債 (注) 1 (注) 2 (注) 3	2014年 ~ 2020年	1,054,922 [1,225百万 米ドル 79,200百万 タイ・パーツ 5,000百万 フィリピン・ペソ 5,800百万 加ドル 1,593百万 アルゼンチン・ペソ 33,044百万 インド・ルピー 8,000百万 ロシア・ルーブル 1,400百万 ブラジル・リアル]	865,629 (277,882) [230百万 米ドル 86,120百万 タイ・パーツ 500百万 フィリピン・ペソ 4,900百万 加ドル 744百万 アルゼンチン・ペソ 23,324百万 インド・ルピー 13,000百万 ロシア・ルーブル 800百万 ブラジル・リアル]	0.80 ~ 60.43	(注) 4	2019年 ~ 2025年
	メディアムターム ノート (注) 1 (注) 2 (注) 5	2007年 ~ 2020年	7,369,135 [43,824百万 米ドル 12,408百万 豪ドル 2,375百万 ニュージーランド・ ドル 1,750百万 英ポンド 2,167百万 香港ドル 8,340百万 ユーロ 9,314百万 メキシコ・ペソ 100百万 マレーシア・ リングgit 78百万 アルゼンチン・ペソ]	7,439,238 (1,974,679) [44,132百万 米ドル 11,853百万 豪ドル 2,003百万 ニュージーランド・ ドル 2,266百万 英ポンド 2,567百万 香港ドル 11,325百万 ユーロ 7,084百万 メキシコ・ペソ 550百万 マレーシア・ リングgit 59百万 アルゼンチン・ペソ 300百万 南アフリカ・ランド]	0.07 ~ 29.48	なし	2019年 ~ 2048年
合計			8,945,057	8,851,868 (2,377,561)			

- (注) 1 当期末残高のうち1年以内償還予定の社債の金額を()内に付記している。
- 2 外国において発行された社債及びミディアムタームノートについて外貨建てによる発行総額を[]内に付記している。
- 3 在外子会社トヨタ クレジット カナダ(株)、トヨタ リーシング タイランド(株)、トヨタ ファイナンシャル サービス フィリピン(株)、トヨタ コンパニーア フィナンシェラ デ アルゼンチン(株)、トヨタ ファイナンシャル サービス インディア(株)、トヨタ バンク ロシア(株)、バンコ トヨタ ブラジル(株)、トヨタ ファイナンシャル サービス コリア(株)の発行しているものを集約している。
- 4 在外子会社が発行した有担保の普通社債17銘柄が含まれている。当該銘柄以外は無担保である。
- 5 在外子会社トヨタ モーター クレジット(株)、トヨタ モーター ファイナンス(ネザーランド)(株)、トヨタ ファイナンス オーストラリア(株)、トヨタ ファイナンス ニュージーランド(株)、トヨタ キャピタル マレーシア(株)、トヨタ ファイナンシャル サービス メキシコ(株)、トヨタ コンパニーア フィナンシェラ デ アルゼンチン(株)の発行しているものを集約している。
- 6 連結決算日後5年内における償還予定額は、次のとおりである。

(単位：百万円)

1年以内	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内
2,378,722	2,513,738	1,652,872	807,517	771,282

借入金等明細表

区分	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,130,702	1,236,789	1.85	
1年以内に返済予定の長期借入金	1,739,114	2,047,580	2.10	
うち、1年以内に返済予定のノンリコース長期借入金	933,641	1,048,754	1.96	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	3,052,704	3,243,564	2.16	2021年～2038年
うち、ノンリコース長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	859,834	908,930	2.04	2021年～2024年
その他有利子負債 コマーシャルペーパー(1年以内返済予定)	3,871,603	4,102,796	1.54	

(注) 1 平均利率は、当連結会計年度末における利率及び残高より加重平均した利率である。

2 長期借入金及びノンリコース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年以内における返済予定額は、次の通りである。

(単位：百万円)

	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内
長期借入金	1,436,189	1,022,816	312,708	288,751
うち、ノンリコース長期借入金	527,621	207,261	19,525	154,521

資産除去債務明細表

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略している。

(2) その他

該当事項はない。

2 財務諸表等

(1) 財務諸表

貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,215	14,144
売掛金	7,632	7,738
関係会社預け金	77,400	48,330
その他	2,250	643
流動資産合計	94,497	70,855
固定資産		
有形固定資産	82	239
無形固定資産	18	76
投資その他の資産		
投資有価証券	16,985	13,983
関係会社株式	210,239	245,733
関係会社出資金	113,291	145,604
関係会社長期預け金	151,080	151,080
その他	276	2,201
投資その他の資産合計	491,873	558,604
固定資産合計	491,974	558,920
資産合計	586,472	629,775

(単位:百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,417	4,506
その他	867	2,708
流動負債合計	5,284	7,214
固定負債	728	692
負債合計	6,012	7,907
純資産の部		
株主資本		
資本金	78,525	78,525
資本剰余金		
資本準備金	78,525	78,525
資本剰余金合計	78,525	78,525
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	422,854	466,721
利益剰余金合計	422,854	466,721
株主資本合計	579,904	623,771
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	555	1,902
評価・換算差額等合計	555	1,902
純資産合計	580,459	621,868
負債純資産合計	586,472	629,775

中間貸借対照表

(単位：百万円)

当中間会計期間
(2020年9月30日)

資産の部

流動資産

現金及び預金	5,899
売掛金	12,114
関係会社預け金	72,640
その他	2,089
流動資産合計	92,743

固定資産

有形固定資産	233
無形固定資産	1,100
投資その他の資産	
関係会社株式	256,013
関係会社出資金	153,185
関係会社長期預け金	151,080
その他	18,544
投資その他の資産合計	578,824
固定資産合計	580,157
資産合計	672,901

(単位：百万円)

当中間会計期間
(2020年9月30日)

負債の部	
流動負債	
買掛金	4,551
その他	1,692
流動負債合計	6,243
固定負債	702
負債合計	6,946
純資産の部	
株主資本	
資本金	78,525
資本剰余金	
資本準備金	78,525
資本剰余金合計	78,525
利益剰余金	
その他利益剰余金	
繰越利益剰余金	510,071
利益剰余金合計	510,071
株主資本合計	667,121
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	1,166
評価・換算差額等合計	1,166
純資産合計	665,955
負債純資産合計	672,901

損益計算書

(単位:百万円)

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	
売上高				
関係会社受取配当金		59,975		51,591
関係会社受取手数料		15,556		15,546
売上高合計		75,532		67,138
売上原価				
関係会社支払手数料		8,846		8,851
売上原価合計		8,846		8,851
売上総利益		66,685		58,286
販売費及び一般管理費	2	5,102	2	7,184
営業利益		61,583		51,102
営業外収益				
受取利息		498		159
受取配当金		401		220
ソフトウェア売却益		1,092		
関係会社株式売却益		92		1,128
為替差益				53
その他		33		2
営業外収益合計	1	2,117	1	1,565
営業外費用				
為替差損		673		
その他		0		31
営業外費用合計		673		31
経常利益		63,027		52,635
特別損失				
関係会社株式評価損				3,949
投資有価証券評価損				708
特別損失合計				4,657
税引前当期純利益		63,027		47,978
法人税、住民税及び事業税		5,107		4,828
法人税等調整額		254		716
法人税等合計		5,361		4,111
当期純利益		57,665		43,866

中間損益計算書

(単位:百万円)

当中間会計期間
(自 2020年4月1日
至 2020年9月30日)

売上高	53,337
売上原価	4,551
売上総利益	48,786
販売費及び一般管理費	3,569
営業利益	45,216
営業外収益	502
営業外費用	0
経常利益	45,719
税引前中間純利益	45,719
法人税、住民税及び事業税	1 2,368
法人税等合計	2,368
中間純利益	43,350

株主資本等変動計算書

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計		
		資本準備金	その他利益剰余金			
			繰越利益剰余金			
当期首残高	78,525	78,525	465,188	622,238	2,321	624,560
当期変動額						
剰余金の配当			100,000	100,000		100,000
当期純利益			57,665	57,665		57,665
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					1,766	1,766
当期変動額合計			42,334	42,334	1,766	44,100
当期末残高	78,525	78,525	422,854	579,904	555	580,459

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計		
		資本準備金	その他利益剰余金			
			繰越利益剰余金			
当期首残高	78,525	78,525	422,854	579,904	555	580,459
当期変動額						
当期純利益			43,866	43,866		43,866
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					2,458	2,458
当期変動額合計			43,866	43,866	2,458	41,408
当期末残高	78,525	78,525	466,721	623,771	1,902	621,868

中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

(単位:百万円)

	株主資本				評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	
		資本準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金			
当期首残高	78,525	78,525	466,721	623,771	1,902	621,868
当中間期変動額						
中間純利益			43,350	43,350		43,350
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)					736	736
当中間期変動額合計			43,350	43,350	736	44,087
当中間期末残高	78,525	78,525	510,071	667,121	1,166	665,955

注記事項

(財務諸表)

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、事業年度末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理している。

3 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

税抜方式によっている。

(2) 連結納税制度の適用

トヨタ自動車株式会社を連結納税親会社とする連結納税主体の連結納税子会社として、連結納税制度を適用している。

(3) 連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用

T F Sは、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいている。

(表示方法の変更)

(損益計算書関係)

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「関係会社株式売却益」(前事業年度92百万円)は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当事業年度より独立掲記することとしている。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っている。

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
ソフトウェア売却益	1,092百万円	百万円
受取利息	485	159

2 販売費及び一般管理費のうち、主要なものは次の通りである。なお、全額が一般管理費に属するものである。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
業務委託費用	1,799百万円	2,850百万円
従業員給与手当	1,159	1,307
賞与引当金繰入額	198	242
退職給付費用	139	163

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

前事業年度(2019年3月31日)

該当事項はない。

当事業年度(2020年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 子会社株式			
(2) 関連会社株式	1,580	27,244	25,663
計	1,580	27,244	25,663

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額
(単位:百万円)

区分	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
子会社株式	203,244	211,477
関連会社株式	6,995	32,675
計	210,239	244,153

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「子会社株式及び関連会社株式」には含めていない。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
繰延税金資産		
関係会社株式評価損	百万円	1,208百万円
その他有価証券評価差額金		838
繰延資産償却超過額		539
投資有価証券評価損		216
退職給付引当金	207	203
関係会社出資金評価損	164	164
未払事業税	45	98
未払費用	47	94
賞与引当金	60	74
その他	47	113
繰延税金資産小計	573	3,553
評価性引当金	170	1,594
繰延税金資産合計	402	1,958
繰延税金負債		
連結法人間取引の譲渡益繰延	45	45
その他有価証券評価差額金	245	
繰延税金負債合計	290	45
繰延税金資産(負債)の純額	111	1,912

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
法定実効税率	30.5%	30.6%
(調整)		
受取配当等永久に益金に算入されない項目	27.8	31.4
外国子会社等受取配当源泉税	5.7	6.4
評価性引当額の増減		3.0
その他	0.0	0.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	8.5	8.6

(重要な後発事象)

該当事項はない。

(中間財務諸表)

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

有価証券

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

2 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、中間会計期間末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理している。

3 その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

税抜方式によっている。

(2) 連結納税制度の適用

トヨタ自動車株式会社を連結納税親会社とする連結納税主体の連結納税子会社として、連結納税制度を適用している。

(3) 連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用

T F Sは、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいている。

(中間損益計算書関係)

1 中間会計期間における税金費用については、簡便法による税効果会計を適用しているため、法人税等調整額は

「法人税、住民税及び事業税」に含めて表示している。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

当中間会計期間(2020年9月30日)

区分	中間貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 子会社株式			
(2) 関連会社株式	1,580	34,914	33,334
計	1,580	34,914	33,334

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の中間貸借対照表計上額
(単位:百万円)

区分	2020年9月30日
子会社株式	221,757
関連会社株式	32,675
計	254,433

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「子会社株式及び関連会社株式」には含めていない。

(重要な後発事象)

該当事項はない。

附属明細表
有価証券明細表

株式

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資 有価証券	その他 有価証券	(株)ジェーシービー	231,900
		Uber Technologies, Inc.	1,025,174
		東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)	7,280,000
		その他(3銘柄)	1,070,798
計		9,607,872	13,983

有形固定資産等明細表

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産				336	97	16	239
無形固定資産				153	77	4	76

(注) 有形固定資産、無形固定資産の金額が資産総額の1%以下であるため「当期首残高」「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略している。

引当金明細表

重要性がないため記載を省略している。

(2) 主な資産及び負債の内容

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略している。

(3) その他

該当事項はない。